2025年度版

事　業　概　要

東部地域療育センターぽけっと

は　じ　め　に

ロシアがウクライナに侵攻したのは 2022 年２月、イスラエルのガザ侵攻は 2023 年 10 月、アメリカによるイラン攻撃は 2026 年２月でした。残念ながら、どれも戦争終結のめどはたっていません。戦争のない平和な世界になってほしいという多くの人の願いもむなしく、戦禍はどんどん広がっていますが、私たちの日々の生活の中では、石油製品の不足など、日常生活への影響はありますが、対岸の火事という感覚であることは否めません。しかし、平和であるからこそ、「日々の保育、療育をよりよいものにしていく」など、今自分たちができることをしっかりやっていきたいと思っています。

最近大切に思っていることは、安心、安全な保育や療育を提供することです。当たり前すぎて今更なんでそんなことをと思われるかもしれませが、沖縄名護市辺野古沖の修学旅行中の高校生が事業登録のない小型船に乗船して高波で転覆して死亡した事故、北越高校部活の遠征でのバス事故など痛ましい事故がありました。親の目の行き届かないところでこのような痛ましい事故が起きたことで、こどもを親御さんから預かる私たちは、あらためて襟を正して、「こどもの発達状況にあったおもちゃや遊びを提供しているか、それは安心安全であるか、不測の事態が起きる可能性がないか」など常に検証していく姿勢が必要だと思いました。

もう一つ大切に思っていることは、困難をかかえた親子へのきめ細かい支援です。子どもはどんなに障害が重くてもそれぞれの発達に応じた、保育や療育を行うことで、見違えるほど問題行動が改善し、発達が促進されます。それには、私たちも驚かされるほどで、こどもの持っている潜在的な発達の力だと思います。ただし、その力を引き出すためには、親のこどもへの理解と適切な関わりが不可欠です。親の考え方や価値観や生活スタイルを変えることはなかなか困難です。診察室の中で説明するだけでは結局徒労に終わってしまうことがしばしばあります。「親の関わり方を変えたことで子供の行動が改善した」という成功体験が親にも必要です。親の子育ての成功体験こそが親自身の行動を変容させることができると思います。子供にとって療育が必要なように、親にとっても子育ての実践指導が必要だと思います。いわゆる「ペアレントトレーニング」です。無理のない形で始動することができればと思っています。

2024 年３月にこども家庭庁より「５歳児健康診査の実施に当たって求められる地域のフォローアップ体制等の整備について」という通知がだされました。名古屋市ではまだ５歳時健診は具体化されていませんが、実施されるとなると受け皿としてのぽけっとの役割はますます大きくなると思います。すでにおこなっている、保育園や幼稚園から小学校への移行のための準備や療育等の整備や見直しをする必要があると思います。

2026 年　３月末

東部地域療育センター所長

荒　川　とよ子

目　　次

第１　施設の概要 ・・・

（3）耳鼻咽喉科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
（4）診断書等発行 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
2 （リ）ハビリテーション ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
（1）理学療法（PT） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
（2）作業療法（OT） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
（3）言語聴覚療法（ST） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
（4）（リ）ハビリスタッフにおける生活支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

第5 通園事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
1 施設概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
（1）定　　員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
（2）対　　象 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
（3）クラス編成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
（4）通園形態 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
（5）親子通園の種類 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
（6）通園バス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
2 療育目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
3 日　　課 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
4 児童の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
5 行　　事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
6 家族の状況と支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
7 通園地域ケア ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
8 ボランティア ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

第6 その他の事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
1 障害児相談支援事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
2 保育所等訪問支援事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
3 名古屋市医療的ケア児支援スーパーバイザー事業 ・・・・・・・・・・・・・・・ 61

平面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

第１　施設の概要

１　施設の目的

「東部地域療育センターぽけっと」は、地域に住んでいる発達や育ちが気になる子ども・障害を持つ子どもとその家族に対して相談・療育を行う。毎日通う集団の場としての「通園事業」、個別相談、親子で参加する療育グループを主とした「発達相談事業」、診察･検査･（リ）ハビリテーションを行う「医療・訓練事業」、地域で安心して暮らせるように支える「地域ケア事業」の４つの事業を主としてすすめる。

２　設置運営

社会福祉法人　名古屋キリスト教社会館

３　施設構成

東部地域療育センターぽけっと
- 福祉型児童発達支援センター（定員 43 名）
- あいの風診療所

・保健医療機関指定
・生活保護法医療機関指定
・障害児リハビリテーション基準承認
・運動器リハビリテーション（Ⅰ）基準承認
・脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅱ）基準承認　等

４　法人の経緯

1961 年 3 月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館設立
1961 年 4 月	社会館保育部認可
1966 年 4 月	心身障害乳幼児の通園施設「愛育園」開設
1973 年 4 月	「愛育園」（精神薄弱児通園施設：当時、定員 30 名）認可
1987 年 3 月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館「将来構想」策定
1989 年 7 月	名古屋市「地域療育センター構想検討会報告書」策定
1992 年 2 月	「南部地域療育センター建設計画」策定
1996 年 4 月	「南部地域療育センターそよ風」竣工
1998 年 10 月	障害児（者）地域療育等支援事業　受託
2000 年 3 月	名古屋キリスト教社会館　第２次将来計画 21 世紀福祉プラン策定
2003 年 4 月	支援費制度　開始
	知的障害児通園施設　名古屋市立あつた学園　市より運営移管
	「発達センターあつた」認可
	知的障害児通園施設　名古屋市立ちよだ学園　市より運営移管
	「発達センターちよだ」認可

「デイサービスちよだ」開始
「デイサービス ACT」開始
2003 年 6 月　子どもセンターみどり開所 「デイサービスみどり」開始
2004 年 4 月　「デイサービスあつた」開始
2006 年 4 月　障害者自立支援法施行
2006 年 10 月　障害者自立支援法施行に伴う児童福祉法改定で通園施設が契約制度に
2010 年 7 月　名古屋キリスト教社会館「東館」開所
2010 年 8 月　「東館」2階　療育グループ専用室確保
2010 年 9 月　社会福祉法人名古屋キリスト教社会館　創立 50 周年
2012 年 4 月　児童福祉法一部改定により事業名称「福祉型児童発達支援センター」に変更
2013 年 3 月　子どもセンターとくしげ　開始
2013 年 7 月　障害児相談支援事業所　そよ風
障害児相談支援事業所　あつた
障害児相談支援事業所　ちよだ　開始
2014 年 6 月　「東部地域療育センターぽけっと」竣工
2015 年 4 月　障害児相談支援事業所　ぽけっと　開始
2016 年 4 月　南部地域療育センターそよ風　通園部　定員 10 名増
2017 年 2 月　東部地域療育センターぽけっと
保育所等訪問支援事業との多機能で再指定
2019 年 7 月　東部地域療育センター　ぽけっと
初診前サポート事業（名古屋市モデル事業）受託
2020 年 7 月　東部地域療育センター　ぽけっと
地域支援調整事業　受託・開始
2021 年 7 月　南部地域療育センター　そよ風
初診前サポート事業　受託
2021 年 8 月　南部地域療育センター　そよ風
医療的ケア児支援スーパーバイザーモデル事業　開始
2022 年 7 月　南部地域療育センター　そよ風
地域支援調整事業　開始
2023 年 4 月　東部地域療育センター　ぽけっと
医療的ケア児支援スーパーバイザーモデル事業　開始
2025 年 4 月　東部地域療育センター　ぽけっと
午前９時からの見守り一時支援事業　受託

5　建物の概要

敷地面積　　4,188.17㎡

構　　造　　鉄筋コンクリート造２階建

規　　模　　建築面積　　1,062.01㎡

　　延べ床面積　1,750.0㎡

6　事業の概要

（1）事業の種類

- 発達相談事業
  - 相談、検査、診断、支援方針検討
  - 療育グループ（就園前・並行）
- 医療訓練事業
  - 診療：小児科・整形外科・耳鼻咽喉科（児童精神科は医師の退職により休診中）
  - （リ）ハビリテーション：理学療法・作業療法・言語聴覚療法・摂食嚥下療法
- 通園事業
  - 単独通園・親子通園　（新規、継続）
  - 見守り一時支援事業
  - アフターケア
- 地域支援調整事業
  - 初回相談（インテーク）
  - 療育グループ
  - 巡回療育、訪問療育
  - 地域連携調節
  - 施設開放、地域啓蒙、ボランティア養成
- 障害児相談支援事業
- 保育所等訪問支援事業

（2）担当地域

千種区・守山区・名東区

〈参考〉

人口、面積（2025 年４月）

		名古屋市	千種区	守山区	名東区	３区合計
人口（人）		2,299,876	159,360	175,473	158,936	493,769
児童人口	0～5歳	96,288	6,126	8,448	7,302	21,876
	0～17歳	321,911	21,838	29,139	25,850	76,827
面積（㎢）		326.5	18.8	34.0	19.5	71.6

（3）組織・職員体制（2025 年３月末現在）

理事長
└所　長 ― 副所長（小児科医）

通園部
- 園　長
- 副園長

児童指導員	6《＋1》	事務員	1
保育士	12《＋2》	訪問支援員	1〈＋1〉
栄養士	1	調理員	《3》
看護師	2《＋1》		

相談診療部（地域支援調整含む）
- 部　長（理学療法士）
- 副部長（発達相談員）

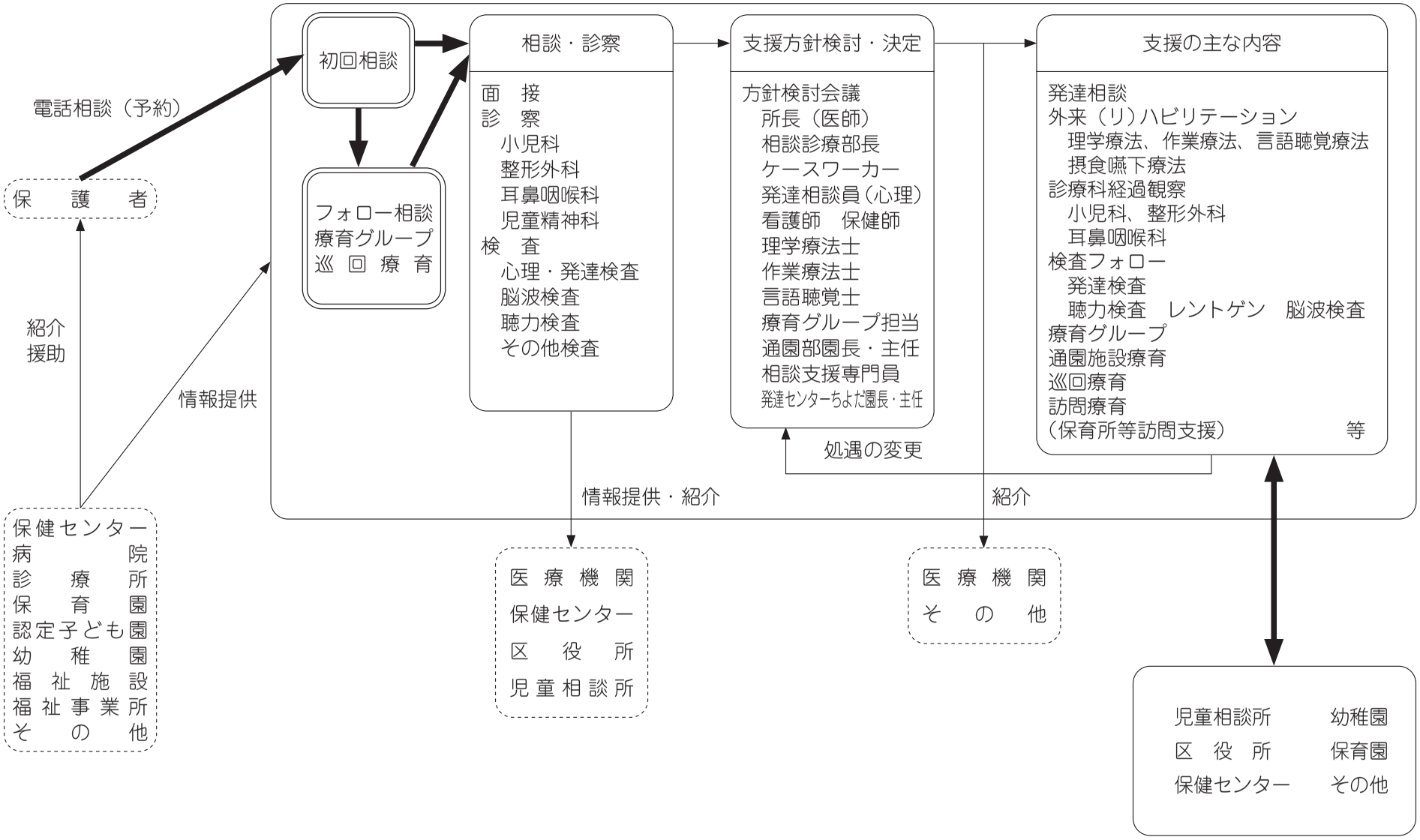
ケースワーカー	2《＋1》	理学療法士	3《＋2》
発達相談員	5	作業療法士	3
児童指導員	2	言語聴覚士	3
保育士	3《＋4》	看護師	1《＋1》
医師	1《＋4》	保健師	1
技師	《1》		
事務員	《2》	訪問支援員（兼務）	《1》

医療的ケア児
スパーバイザー１
相談支援専門員２《＋１》

※育休中職員：３名
《　》内は、嘱託職員及びパート職員数を示す

（4）相談の流れ

東部地域療育センターぽけっと



第２　地域支援調整事業

１　初回相談

表２－１　初回相談の区別・年齢別実施状況

（単位：人）

区	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	６歳	計
千種区		12	41	38	32	17	8	148
守山区		13	53	65	38	23	3	195
名東区	1	7	63	55	43	28	5	202
その他					2		1	3
合計	1	32	157	158	115	68	17	548

表２－２　初回相談の所属別実施状況

（単位：人）

区別	計
保育園	270
在宅	128
幼稚園	84
子ども園	54
その他	12
合計	548

表２－３　初回相談の主訴別実施状況

（単位：人）

主訴	計
ことば	273
行動	154
集団適応	99
運動発達	13
生活習慣	5
その他	4
合計	548

表２－４　初回相談の紹介別実施状況

（単位：人）

紹介機関分類	計
守山保健センター	71
名東保健センター	87
千種保健センター	53
保育園	161
子ども園	28
幼稚園	39
医療機関	21
インターネット	22
家族	31
区役所	6
知人	7
他療育センター	4
いこいの家	11
その他	7
合計	548

表２－５　初回相談の方針

（延べ件数、複数方針あり）

（単位：件）

方針	計
初診	442
療育グループ	147
継続相談	33
巡回	19
他機関紹介	13
適宜フォロー	10
終了	7
合計	671

2　療育グループ

（1）就園前グループ

【昨年度同様の事柄】

・前年同様の療育目標のもと実施
・保育時間は 9：45 ～ 11：15（月曜日こあらグループのみ 14：30 ～ 15：30）
・保護者の就園希望先別の療育グループに所属する「移行制度」活用
・年度末に保護者による「療育グループのまとめ」記入

【2025 年度特徴的な事柄】

・年度当初管理数は、過去最少（入園に伴う終了により、前年度からの継続児減）
・9 月以降参加児増（ちよだからの管理移管、幼稚園や保育園申請間際の未就園児の参加増）
・年度末時点で管理数は、昨年度比横ばい
・満 3 歳入園での途中終了児は昨年比増（2024 年度 /7 名→ 2025 年度 /13 名）
・運動発達遅れ児は昨年比横ばいだが、（2024 年度比）医ケア児は増
・こあらグループは秋以降増。平日外出困難家庭の訪問療育との併用多い
・ぞうグループは過去最大の登録。詳細は下記記載

【ぞうグループおよび並行てくてく児の対応について】

〇ぞうグループ

・対象：就園している未初診の 1、2 歳児。インテーク担当者にて方針決定
・過去 3 年間最も多い参加数（2023 年度 /32 名→ 2024 年度 /15 名→ 2025 年度 /46 名）
・初診終了まで継続可能。初診希望のない方は年度末まで継続
・インテークにおける参加勧奨理由は「通園部での療育対象となりうる児」「保護者が子どもとの関わり方を知りたい」「親子遊びを知りたい」など 10 項目以上
→年度途中で方針見直し：インテーク担当と共に目的を以下 3 項目に整理、保護者と目的を共通認識とした上で参加開始
□　親子あそびを通して、子どもの好きなあそびを広げましょう
□　集団のなかの子どもの様子を見てみましょう
□　子どもの様子をスタッフと一緒に捉え合いましょう

〇並行てくてくについて

・対象：診察において、保育所等に通うことと並行して療育グループ参加が勧奨された児
・可能な場合は平日のグループに登録し、最大週 1 回参加
・診察にて「通園施設での療育が勧奨」とされたが、平日の参加が難しい場合は、ぞうグループへの参加を勧奨（月 1 回）

【2025 年度事業まとめと課題】

〇未就園児対象事業における、すでに就園している児への対応整理

・本事業は「就園前グループ」であり、本来は未就園児を対象としている
・近年の保護者就労増加等により、「実態としては療育グループでの支援が望ましいが、既に保育日に入日しているため本来は事業対象外となる児」へのフォロー必要性がさらに増えている

【就園前グループ実施状況】

表２－６　就園前グループ実施状況

（東部地域療育センターぽけっと及び発達センターちよだ管理の全療育グループ一覧）

	対象	グループ（管理）		場所	開始	スタッフ①（常時参加の職員）	スタッフ②（定期参加の職員）
受入グループ	守山区在住	れたす（ちよだ）	木	ちよだ	2025.4-8	保育士・指導員２ 嘱託職員２	心理士：1/ 月
		（ぽけっと）	木	ちよだ	2025.9	保育士・指導員２ 嘱託職員１	心理士：１/ 月
	千種区・名東区在住	くま（ぽけっと）	火	ぽけっと	2025.4	保育士・指導員４ 心理士１(10 月～） 嘱託職員２	心理士：1/ 月
		しまうま（ぽけっと）	金	ぽけっと	2025.4	保育士・指導員２ 心理士１(～９月） CW １ 嘱託職員１	心理士：１/ 月
	千種区・名東区在住（継続２歳児）	くじら（ぽけっと）	水	ぽけっと	2025.4	保育士・指導員２ 嘱託職員２	保健師：１/ 月 OT：１/ 月
		いるか（ぽけっと）	水	清明山集会所	2025.4	保育士・指導員２ 嘱託職員１	保健師：１/ 月 OT：１/ 月
	志段味地区	とまと（ちよだ）	水	エコビレッジ	2025.4	保育士・指導員２ 嘱託職員１	心理士：１/ 月
就園希望先別グループ	通園・保育所 発達援助入園希望	かば（ぽけっと）	水	ぽけっと	2025.4	保育士・指導員２ 保健師１ 嘱託職員２	OT：１/ 月
		きゃべつ（ちよだ）	木	ちよだ	2025.4	保育士・指導員１ 嘱託職員２	
	幼稚園入園希望	れんこん（ぽけっと）	金	苗代コミセン	2025.10	保育士・指導員２ 嘱託職員１	
		ぱんだ（ぽけっと）	水	清明山集会所	2025.4	保育士・指導員２ 嘱託職員１	OT：１/ 月
運動遅れ	医ケア・重心（主に未歩行児）	ひよこ（ぽけっと）	木	ぽけっと	2025.4	保育士・指導員２ 保健師１ 嘱託職員１	PT：２/ 月
	運動発達遅れ（千種区・名東区）	すずめ（ぽけっと）	月	ぽけっと	2025.5	保育士・指導員４ 保健師１	OT：１/ 月 PT：１/ 月
	運動発達遅れ（守山区）	にんじん（ぽけっと）	木	ちよだ	未開始		
	守山区在住 運動、重心	かぼちゃ（ちよだ）	火	ちよだ	2025.4	保育士・指導員１ PT １ 嘱託看護師１	
月1回	初診前並行	ぞう（ぽけっと）	土	ぽけっと	2025.5	保育士・指導員３ 心理士１、CW １	
	低月齢運動遅れ	こあら（ぽけっと）	土		2025.4	保育士・指導員１ 保健師１	
他	待機児グループ	つくしんぼ（ちよだ）	火 金	ちよだ	2025.4	保育士・指導員１ 嘱託職員１	PT：不定期
	千種区・守山区・名東区在住（体験会）	たまご（ぽけっと）	月	ぽけっと	2026.3	保育士・指導員３	

注）スタッフ配置は親子の状況等により変動あり。本表のスタッフ配置は年度末状況。

表２－７　就園前グループの区別年齢状況表　（単位：人）

区	※00 歳児	※※0 歳児	1 歳児	2歳児	3歳児	計
千 種 区	1（0）	4（1）	25（1）	22（ 5）		52（ 7）
守 山 区	1（0）	2（0）	16（3）	35（15）	3（1）	57（19）
名 東 区		13（1）	29（3）	54（11）		96（15）
合計	2（0）	19（2）	70（7）	111（31）	3（1）	205（41）

表２－８　就園前グループの障害種別状況表　（単位：人）

障害種別	00 歳児	0 歳児	1 歳児	2歳児	3歳児	計
自　　閉			7（0）	27（10）		34（10）
自 閉 ＋ M R		1（0）	6（1）	20（ 4）		27（ 5）
M　　R		4（0）	10（1）	13（ 3）		27（ 4）
言 語 発 達 遅 滞		1（1）	6（2）	28（ 8）		35（11）
肢 体 不 自 由			1（0）			1（ 0）
肢 体 ＋ M R						
重　　心					2（1）	2（ 1）
そ の 他 保 健	2（0）	11（1）	16（3）	9（ 1）	1（0）	39（ 5）
未 決 定				4（ 2）		4（ 2）
未 初 診		2（0）	24（0）	10（ 3）		36（ 3）
合計	2（0）	19（2）	70（7）	111（31）	3（1）	205（41）

表２－９　就園前グループの就園先状況　（単位：人）

区　分	00 歳児	0 歳児	1 歳児	2歳児	3歳児	計
通　　園		2（0）	9（0）	10（ 0）		21（ 0）
保 育 園		4（1）	9（2）	13（ 1）		26（ 4）
幼 稚 園				30（ 1）		30（ 1）
こ ど も 園				1（ 0）		1（ 0）
満 3 入 園				14（14）		14（14）
進　　級			14（3）	22（ 4）		36（ 7）
転　　園				4（ 0）		4（ 0）
そ の 他		1（0）	1（0）	3（ 2）	1（1）	6（ 3）
グ ル ー プ 継 続	2（0）	10（0）	30（0）	1（ 0）	2（0）	45（ 0）
未 開 始			1（0）	4（ 3）		5（ 3）
転　　居		1（1）	5（2）	3（ 1）		9（ 4）
ち よ だ 移 行		1（0）	1（0）	6（ 5）		8（ 5）
合計	2（0）	19（2）	70（7）	111（31）	3（1）	205（41）

注）（1）年齢は学年齢である
（2）（　）内の数字は、途中終了児である
（3）※00 歳児とは 2025 年度生まれ、※※0 歳児とは 2024 年度生まれである
（4）「通園」は、保育園等の利用児（4 名）の転園を含む
（5）「進級」は、既に保育園等を利用しており保育園等に進級した児
（6）「その他」は、託児所、進路未確認の終了児
（7）「ちよだ移行」は、年度途中で発達センターちよだが管理する療育グループへ移行した児

表２－10　月別利用者延べ人数状況　　（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
すずめ	14	18	28	26	20	32	29	24	51	32	32	27	333
	6	8	9	11	13	14	16	16	15	17	17	17	159
くま	18	25	31	39	18	36	38	49	69	50	45	12	430
	9	12	13	9	11	13	17	22	22	24	19	18	189
くじら	12	12	10										34
	4	4	4										12
いるか	10	11	10										31
	3	3	3										9
かば				19	9	14	31	24	30	39	22	11	199
				6	4	9	9	10	11	13	13	13	82
ぱんだ				25	15	13	13	12	19	35	24	16	172
				8	8	5	5	6	8	13	13	13	79
ひよこ	9	12	18	20	13	29	46	32	31	33	36	13	292
	6	7	8	8	9	13	16	16	16	16	18	18	151
れたす						24	35	28	20	29	29	10	175
						11	11	10	10	16	11	11	80
しまうま	19	24	29	18	24	21	42	34	26	39	47	12	335
	10	9	10	7	9	12	12	13	13	17	18	17	147
れんこん	3	6	4	8	15	17	30	19	21	26	33	10	192
	2	2	2	4	5	8	9	10	10	11	10	10	83
ぞう		7	13	6	6	13	15	13	17	8	5		103
		10	17	15	15	18	21	29	30	31	23		209
こあら		1	0	1	0	0	2	2	3	4	1	4	18
		3	3	3	3	3	4	3	5	6	6	6	45
たまご												4	4
												4	4
合計	85	105	133	162	120	220	281	237	287	295	274	119	2318
	40	58	67	65	77	106	120	135	140	164	148	127	1249

注）各グループの上段が延べ人数、下段が登録数である。

（2）並行グループ

【療育目標】

〇子どもにとって

・親子で安心できる場として通い、活動の流れに見通しをもてるようにしていく
・とりくみを通して、“できた・やれた”という達成感をあじわい、自信につなげていく
・スタッフや保護者、お友だちと一緒に取り組むなかで、人との関わりを楽しみながら、コミュニケーションの力を広げていく

〇保護者にとって

・親子で一緒に取り組むなかで、子どもの得意なことや苦手なことをスタッフと捉え合う
・とりくみのなかでよかった姿を見つけ、子どもの自信のもてる関わりを見つけていく
・グループのなかで保護者同士が子育ての悩みや、園で困っていることが話し合える場になるように親子分離で交流会を行う
・スタッフと共に子どもを捉え、懇談をおこなう

【特徴】

〇例年に倣う事項

対象：幼稚園や保育園での集団生活が難しいなど子どもが園生活に困難を抱えているケース・保護者が子どもへの関わり方の難しさを抱えているケース・子どもが小集団でのコミュニケーションの経験を積むこと、保護者が子ども理解を深めることを目的にしたケース。

・当センターの小児科診察で保護者と参加目的を確認し開始。（※参加目的は下記表参照）
・保護者交流会を 10 回中 3 回程度実施。テーマは「自己紹介」「子どものかわいいところ、困っていること」「並行グループに通ってみての感想」「就学に向けて」や、子どもと同じ活動を体験する（はじまりのつどいや製作活動など）機会などを設けた。各グループの親子の状況から検討し、実施。
・2024 年度より、初回懇談を設け、並行グループのねらいや受付用紙の内容を元に保護者のねがいなどの聞き取りを実施。活動が始まる前にねらいとねがいのすり合わせをする機会ができ、有効的であったため、2025 年度も継続。
・並行グループに関わっているスタッフ全員での実働会議を年 2 回設け、各グループの状況報告やケース検討、次期の体制などの検討を実施。

〈参加目的〉
1．子どもが、小集団の中でお友達とやりとりする経験を積む
2．子どもが、小集団の中で自分の気持ちを表現する経験を積む
3．保護者が、集団での子どもの様子を捉える
4．保護者が、親子で楽しく遊ぶ経験を積む
5．保護者が、子どもとの接し方をスタッフとともに考える
6．保護者同士が、子どもを通して交流し、横のつながりをつくる

〇 2025 年度から変更した事項

①所属園の先生、保護者、スタッフの 3 者で連携をとる「見学会」「懇談会」を廃止

・「見学会」「懇談会」を実施することで参加される園、されない園により保護者と子どもの姿をする機会に差がでたことや、全 10 回中、見学会が 3,4 回あり、親子での活動に集中できない状況があったことから、“親子であそぶ”ことに集中できるようにした

・園連携として、連絡ノートに「2 週間の園の様子」の項目を設け、保護者自身が子どもの様子を園に聞き、連絡ノートに書いてきてもらうことで、園の姿・家庭の姿・グループでの姿の共有に活かした

②個人懇談の実施

・初回の顔合わせ懇談のほかに 4,5 回目に個人懇談を実施し、保護者とともに子どもの様子を共有し、後半の子どもの目標、保護者の目標をともに考える機会にした

③並行グループご案内の流れの変更

・これまで、診察で並行グループのオーダーが出てからグループ開始までの期間が空き、家庭状況や保護者の意識の変化（園や習い事の予定や児童発達支援の日程の優先・保護者の就労など）や、保護者が並行グループについて理解が不十分であった場合には、開始直前のキャンセルや曜日変更などの対応が重なることがあった。

・上記の状況を解消するために、並行グループ担当者より、オーダー後 2 週間以内・参加開始 1 か月前の 2 回に分けて連絡をし、並行グループの説明や保護者の意向の確認を行った。

【実施状況】

・前半期は、学年別のオーダー数を見ながら５歳児グループ３つ、４歳児グループ１つで設定した。

・後半期はオーダー数減少や、開始直前になってのキャンセルが重なり、まつぼっくりグループは未実施とし、4 歳児グループ１つ、5 歳児グループ１つ、4,5 歳児混合グループ１つ（4 歳児６名、５歳児２名）で実施した。

・4,5 歳児混合グループの５歳児保護者から「同じ学年の集団での活動を期待していた」というご意見があった。同グループ内で５歳児１名が途中終了となったこともあり、保護者と検討の末に５歳児グループへ途中移行を行った。

表２－ 11　並行グループの実施状況　（単位：人）

	実施状況	対象児	４歳児	５歳児	計	職員体制
前半期	まつぼっくり ４月～９月 隔週火曜日	５歳児		7	7	保育士１ 指導員２ 心理士１
	どんぐり ４月～９月 隔週火曜日	４歳児	7		7	保育士２ 指導員１ 心理士１
	くり ４月～９月 隔週木曜日	５歳児		6	6	保育士２ 指導員１ 心理１
	たけのこ ４月～９月 隔週木曜日	５歳児		5	5	保育士２ 指導員１ 訓練士１
後半期	まつぼっくり 10 月～３月 隔週火曜日					
	どんぐり 10 月～３月 隔週火曜日	４・５歳児 ※３回目～ ４歳児のみ	6	1（1）	7（1）	保育士２ 指導員１ 心理士１
	くり 10 月～３月 隔週木曜日	５歳児		7	7	保育士２ 指導員１ 心理士１
	たけのこ 10 月～３月 隔週木曜日	４歳児	8		8	保育士２ 指導員１ 心理士１
計			21	26（1）	47（1）	

注）（　）は途中終了児である

※後半期どんぐりグループの１名、くりグループへ移行（数字はグループ終了時人数である）

表２－12　並行グループ障害種別状況　実人数　　（単位：人）

障害種別	４歳児	５歳児	計
自閉	17	17（1）	34（1）
自閉＋ＭＲ	1	2	3
ＭＲ		1	1
言語発達遅滞	3	6	9
その他			
計	21	26（1）	47（1）

注）年齢は学年齢である。
（　）は途中終了児である。

表２－13　並行グループ区別状況　　（単位：人）

区	４歳児	５歳児	計
千種区	10	11	21
守山区	6	6	12
名東区	5	9（1）	14（1）
計	21	26（1）	47（1）

注）年齢は学年齢である。
（　）は途中終了児である。

表２－14　並行グループ在籍児所属園　　（単位：人）

区別	４歳児	５歳児	計
公立幼稚園			
民間幼稚園	2	8（1）	10（1）
公立保育所	3	6	9
民間保育園	12	8	20
こども園	3	4	7
その他	1		1
計	21	26（1）	47（1）

注）年齢は学年齢である。
（　）は途中終了児である。

表２－15　並行グループ月別参加延べ人数　　（単位：人）

	前半期							後半期						
グループ名	４月	５月	６月	７月	８月	９月	計	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
まつぼっくり	14	6	11	19	5	12	67							
どんぐり	7	11	12	8	8	10	56	15	12	9	8	8	5	57
くり	11	10	11	18	5	6	61	16	11	12	11	10		60
たけのこ	5	14	9	9	10	5	52	15	13	11	14	9	6	68
計	37	41	43	54	28	33	236	46	36	32	33	27	11	185

3　巡回療育　訪問療育　施設支援

（1）巡回療育

【巡回療育の内容】

保育園、認定こども園、幼稚園、その他の保育事業所、小学校、特別支援学校等に、当センターのスタッフが出向いて集団での児童の様子を見学した。児童が集団の中で生活しやすくするための環境調整や支援方法、療育方針等を先生方と検討した。

【巡回療育の対象】

巡回の対象は、当センターの受診歴がある児童（巡回）、初診前相談を受けた児童（初診前巡回）、通園施設から就園や就学をした児童および、エリア内の通園施設を対象としている。

また、訪問する前に保護者や対象施設に電話で情報共有（園連携）をすることで、巡回目的を明確化した。情報共有する中で、施設側のニーズを満たすケースも多くあった。

【件数】

全体の件数は 69 件であった。内訳や訪問スタッフについては以下の表に表す。

巡回療育

表２－16　巡回療育の実施件数　（単位：件）

区　別	千種区	守山区	名東区	その他	計
保育園	11	15	4	1	31
こども園	1		3		4
幼稚園	1	2	1		4
小学校	2	1	2		5
特別支援学校	1			1	2
その他	6				6
計	22	18	10	2	52

表２－17　巡回療育の職種別延べ人数　（単位：人）

ケースワーカー	発達相談員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	グループ保育士	グループ指導員	通園保育士	通園指導員	その他	計
0	29	7	8	4	12	5	24	4	14	107

表２－18　巡回療育の障害種別状況　（単位：人）

障害種別	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	計
知的障害		1	1	7	3	1	2		15
自閉症			4	7	11		2		24
自閉症＋知的障害			3	3	2	1			9
肢体不自由							2		2
肢体不自由＋知的障害									0
言語発達障害等				1	2	2	5		10
重症心身障害						1		1	2
その他				3			1		4
計	0	1	8	21	18	5	12	1	66

注）１回で複数人が対象となることもある。

初診前巡回

表２－19　初診前巡回の実施件数　（単位：件）

区　別	千種区	守山区	名東区	その他	計
保育園	3	4	3	1	11
こども園		2			2
幼稚園	2	1	1		4
小学校					0
特別支援学校					0
その他					0
計	5	7	4	1	17

表２－20　初診前巡回の職種別延べ人数　（単位：人）

ケースワーカー	発達相談員	作業療法士	言語聴覚士	グループ保育士	グループ指導員	通園保育士	その他	計
	17	4	1	5	5			32

表２－21　初診前巡回の学年齢別状況　（単位：件）

0歳児	
1歳児	2
2歳児	2
3歳児	8
4歳児	4
5歳児	1
6歳児	0
計	17

【巡回・初診前巡回満足度アンケートの実施】

69件中17件にお答えいただいた。各施設からの意見をもとに、巡回依頼から実施までの期間や訪問内容など、円滑な運営に反映していく。

（2）いこいの家事業への支援指導

千種区、守山区の児童館で開催されている「いこいの家」事業に月１回、個別相談を実施した。名東区のいこいの家では集団相談会および個別相談を年３回実施した。

また、言語聴覚士、作業療法士が保護者向けの学習会を実施した。

表２－22　いこいの家事業への支援実施状況　（単位：人）

区　分	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
個別相談人数	2	7	3	5	6	7	3	4	1	11	8	8	65
学習会参加人数				13			16				16		45

表２－23　いこいの家事業への職種別延べ人数　（単位：人）

ケースワーカー	発達相談員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	グループスタッフ	計
9	3	0	2	1	0	15

（3）訪問療育指導

【目的】

当センターへの通所が困難な家庭や、社会との接点のない家庭に訪問し、家庭における障害児への療育的関わりと保護者支援等を行なう。

【対象となる項目】

2025 年度は対象を以下のいずれかの項目に該当する家庭への訪問療育をおこなってきた。

①家庭の事情や子どもの体調などでグループに通えていない
②感染の理由で集団参加が難しい
③園にもデイにも行けておらず、親子が社会との接点がない
④グループやリハに通っているが、家庭での状況がとらえにくい

【対象児】 継続３名、新規２名　計５名

全員、医療的ケア児である。また、どのケースも複数の理由で訪問療育が必要と判断されている。新規児 1 名以外は通園への就園説明をし、希望の意向を聞いたが、全員「難しい」という理由で 2026 年度も訪問療育継続となっている。

1）継続児 3 名の状況

「感染症に罹ると重篤な状況になりやすいため、集団生活が困難」「児の状況から、保護者が単独で児と外出することが困難」「保護者の状況から、児と単独で外出することが困難」という理由で継続している。

訪問療育開始後にデイサービスにつながったケースもあるが、保護者支援の視点から訪問療育を継続した。

2）新規児 2 名の状況

継続児と同じく、「保護者の状況から、児と単独で外出することが困難」「感染症に罹ると重症になるため、集団生活ができない」等、複数の理由から訪問療育につながった。

3）また、2024 年度から継続して、就園前グループ「ひよこグループ」「すずめグループ」の家庭訪問を実施した。

生活環境の把握や、保護者からの率直な思いを聞いたりすることができた。2026 年度は、グループスタッフが家庭訪問を必要と判断したケースに適宜訪問することになっている。

表２－ 24　訪問療育の実施状況　（単位：件、人）

①訪問療育対象児

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
対象人数	4	2	4	3	3	3	3	3	2	3	2	4	36
延べ件数	5	4	6	6	3	5	5	4	3	3	4	6	54

②ひよこグループ、すずめグループの家庭訪問

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
対象人数			1	2	1	0	1	2	2	1	2		12
延べ件数			1	2	1	0	1	2	2	1	2		12

③職種別

訪問療育 / 家庭訪問に携わった職種は、保育士、児童指導員、保健師、ケースワーカーである。

（4）施設支援事業

【施設支援の内容】

訪問型学習会：

施設の主訴に合わせたテーマの話題提供と事例検討会を通し、施設スタッフの潜在的な知識・技術の引き出しと、施設内での支援体制の構築をサポートする。

公募の対象はエリア内の幼稚園・保育園・認定こども園・その他の保育事業所。

公募を行い申し込みのあった施設に対して、打ち合わせや振り返りを含めて、1 園あたりのべ 3 回訪問した。

【件数】

全体の件数は 55 件であった。内訳や訪問スタッフについては以下の表に表す。

表 2 － 25　訪問型学習会のべ訪問数　（単位：件）

区別	千種区	守山区	名東区	計
保　育　所	8	21	23	52
認定こども園				
小規模児保育事業				
家庭的保育事業				
幼　稚　園	3			3
計	11	21	23	55

表 2 － 26　訪問型学習会の職種別延べ人数　（単位：人）

発達相談員	作業療法士	言語聴覚士	理学療法士	グループ保育士	グループ指導員	ケースワーカー	通園保育士	計
30	29	14	3	36	3	3	6	124

4　関係機関連携

（1）関係機関への職員派遣

表２－ 27　関係機関への職員派遣

派遣先	内　容	派遣職員	派遣頻度	実施回数
千種保健センター	親　子　教　室	発 達 相 談 員	月１回	12 回
守山保健センター	親　子　教　室	ケースワーカー	月１回	12 回
名東保健センター	親　子　教　室	発 達 相 談 員	月１回	12 回
名東保健センター	就学のつどい	発 達 相 談 員	年２回	１回

※守山保健センター志段味分室の親子教室は 2025 年度から廃止。

（2）連絡調整会議

表２－ 28　関係機関との連絡調整会議

会議等		開催日　内容	構成メンバー
保健センター ・ケース連絡会 ・療育センター 見学会	千種	2025.11.11 関係機関連絡会	保健センター さわらび園
	守山	2025.7.8 ミニ会議 2025.11.7 関係機関連絡会	保健センター 発達センターちよだ
	名東	2025.11.14 関係機関連絡会	保健センター
千種区療育連絡会 （事務局会議２回実施）		2025.8.1 事例検討「発達支援につながりにくいケースについて」	民生子ども課 保健センター エリア支援保育所 区内保育施設（保育園・幼稚園等） さわらび園 千種区社会福祉協議会 子ども応援委員会
		2025.12.10 講演「子ども応援委員会について～どんなことが相談できるの？～」（講師：名古屋市子ども応援委員会　SSW 石川真美子先生） グループ交流 「就学を見据えた乳幼児期の支援について」	
名東区発達援助研究交流会		2025.7.30 各機関事業説明 講演「気になる子の支援とその保護者への対応」（講師：東部地域療育センターぽけっと成田民子、石井真理子） グループ交流	民生子ども課 保健センター エリア支援保育所 区内保育施設（保育園・幼稚園等）
守山発達支援部会		2025.7.31 講演「発達支援が必要な児をもつ保護者への対応と支援」（講師：安藤久美子先生） 2026.2.26 講演「発達支援につながる時に感じたこと」（講師:保護者の方３名）	民生子ども課 区役所志段味支所 保健センター エリア支援保育所 発達センターちよだ 区内保育園、幼稚園、子育て支援拠点
サポートチーム会議		2025.10.17 2025.12.19	児童相談所、区役所、保健センター 病院 訪問看護ステーション 所属園 民生子ども課 さわらび園 ケースに関係した関係機関
エリア支援保育交流会		2025.11.20 2025.12.3	エリア支援保育所 保育園・小学校
学習会		2025.6.20 2025.9.4 2025.12.4	名古屋私立保育連盟 名東にじいろ 子育て応援拠点・にじのアーチ 守山区民間保育連盟

第３　発達相談事業

１　新規相談

表３－１　新規相談の年齢・区別状況　（単位：人）

区	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	６歳	計
千　種　区	5	12	32	40	29	34	6	158
守　山　区	7	19	46	70	40	33	4	219
名　東　区	4	22	48	66	41	35	4	220
担当区外（転入予定）								0
市　　外（転入予定）					1	1		2
計	16	53	126	176	111	103	14	599

注）年齢は初診時の満年齢である。

表３－２　中央療育センター・地域療育センターの相談歴　（単位：人）

原管理	千種区	守山区	名東区	担当区外	計
中央療育センター	1	3			4
北部地域療育センター	2	1			3
西部地域療育センター	1	1			2
南部地域療育センター		1			1
計	4	6	0	0	10

表３－３　新規相談の主訴別状況　（単位：人）

主訴症状	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	６歳	計
言　語　発　達		5	31	45	15	15	3	114
精　神　発　達			3	13	3	5	2	26
運　動　発　達	11	15	1	2	1	1		31
全　体　発　達	5	33	81	94	59	62	6	340
性　格　行　動			9	22	33	20	3	87
そ　の　他			1					1
計	16	53	126	176	111	103	14	599

注）年齢は初診時の満年齢である。

表３－４　新規相談のセンターへの紹介経路　（単位：人）

紹介機関分類	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	６歳	計
保健センター	6	20	56	93	25	14	1	215
医療機関	9	23	5	10		8	3	58
中央療育センター			1			1		2
北部地療センター				1		2		3
南部地療センター				1				1
西部地療センター					1	1		2
児童相談所								0
福祉事務所				1		5	1	7
児童福祉施設				1	3	2		6
保育園		1	24	37	50	39	4	155
幼稚園			3	6	15	7	1	32
こども園		1	10	8	6	4	2	31
いこいの家		1	7	3				11
近隣知人		1			1	2		4
家族親戚		2	9	4	4	4		23
その他	1	4	11	11	6	14	2	49
計	16	53	126	176	111	103	14	599

注）年齢は初診時の満年齢である。

表３－５　新規相談の障害種別状況　（単位：人）

障害種別	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	６歳	計
知的障害	1	10	14	24	11	11	1	72
自閉症＋知的障害		6	31	26	13	6		82
自閉症		3	25	58	34	31	4	155
肢体不自由								0
知的障害＋聴覚障害								0
知的障害＋視覚障害								0
肢体不自由＋知的障害						1		1
肢体不自由＋聴覚障害								0
重心		1				1		2
言語発達障害等	1	5	46	60	46	51	8	217
性格行動								0
聴覚障害								0
視覚障害								0
保健	14	28	8	4	6	2	1	63
未決定			2	4	1			7
計	16	53	126	176	111	103	14	599

注）（１）年齢は初診時の満年齢である。
（２）言語発達障害等には、知的境界域、ADHD が含まれる。
（３）未決定は、知的正常域、定型発達である。

表３－６　新規相談の処遇方針作成状況　（単位：人）

処遇方針		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
経過フォロー	小児科	12	40	114	162	100	75	2	505
	整形外科	10	24	11	6	5	2		58
	耳鼻科								0
	発達相談	6	32	114	160	95	72	1	480
PT訓練		9	20	1	1		2		33
OT訓練					2	3	1		6
ST訓練					3	3	6	1	13
摂食機能訓練			6	2	1				9
就園前グループ		10	31	68	35				144
並行グループ					7	19	16		42
聴力検査		1	11	57	46	16	10	1	142
通園施設方向			7	23	5	2	2		39
巡回療育指導				2	3	2	4		11
訪問療育指導		1	2						3
他機関紹介			2	1		1	2	1	7
必要時フォロー		4	7	6	12	9	24	9	71
特にフォローなし					1		2	2	5
その他		1	13	43	43	18	12		130
計		54	195	442	487	273	230	17	1698

注）（1）年齢は初診時の満年齢である。
（2）新規相談時に処遇を作成した数である。
（3）実際に処遇を開始した数とは異なる。

【2026 年度通園入園希望者】　（単位：人）

区	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
千種区	1	6	5	1	1	14
守山区	1	9	5	1	3	19
名東区	3	5	5			13
計	5	20	15	2	4	46

注）（1）年齢は 2025 年度の新学年齢である。
（2）ぽけっと、ちよだ、さわらび園の新入園枠は、30 であった。

【進路内訳】　（単位：人）

進路先	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
東部地域療育センターぽけっと		8	10	1		19
発達センターちよだ		9	5	1	3	18
さわらび園	2	2			1	5
ちよだ待機児グループ	1					1
就園前グループ	2	1				3
計	5	20	15	2	4	46

【2026 年度ぽけっと・ちよだ・さわらび園入園児の 2025 年度の所属】　（単位：人）

	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
療育グループ	5	16	4			25
保育園		1	7	2	1	11
ちよだ待機児グループ		2	4			6
児童発達支援事業所					1	1
在宅		1			1	2
その他					1	1
計	5	20	15	2	4	46

注）（1）その他は、他県施設である。
（2）年齢は 2025 年度の新学年齢である。

2　発達検査および発達相談

（1）新規相談児童の発達相談

・新規相談におけるアセスメントでは、発達検査と併せて行動観察や、保護者からの聞き取りをおこなった。

表３－７　初診の状況（発達相談）　（単位：人）

区	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
千　種　区		12	32	40	29	34	6	153
守　山　区		19	46	70	40	33	4	212
名　東　区		22	48	66	41	35	4	216
担当区外（転入予定）								0
市　　外（転入予定）								0
計	0	53	126	176	110	102	14	581

注）年齢は初診時満年齢である。

（2）継続相談児童の発達検査、および発達相談

・継続相談とは発達相談員が担当する初診後の経過相談である。

・発達の再評価や保護者の相談を基本としながら、必要に応じてセンター内職員や関係機関と連携した。

表３－８　継続相談児のフォロー状況　（単位：人）

区	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	計
千 種 区		10	21	56	82	88	48	1	306
守 山 区		9	35	82	142	172	78	5	523
名 東 区		8	28	70	98	107	63	4	378
担当区外						1			1
市　　外				1					1
計	0	27	84	209	233	368	189	10	1209

注）（1）年齢は満年齢である。
（2）延べ人数である。
（3）保護者のみの相談も含まれる（延べ 46 件）
（4）担当区外、市外は、初診時の居住区であり、継続相談では担当区に居住している。

表３－９　継続相談児の年齢別検査結果　（単位：人）

検査数値	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	６歳	低学年	計
20 以下		1	4		2	4	2		17
21 ～ 35		1	6	5	9	13	7		44
36 ～ 50		6	9	15	34	18	9		63
51 ～ 75		9	40	86	78	67	39	1	176
76 以上		10	25	103	198	266	132	9	572
計	0	27	84	209	321	368	189	10	872

注）年齢は満年齢である。

表３－ 10　継続相談児の障害種別検査結果　（単位：人）

障害種別	１度	２度	３度	４度	非該当	計
	20以下	21～35	36～50	51～75	76以上	
知的障害	8	18	17	67	16	126
自閉症			2	8	288	298
自閉症＋知的障害	1	23	41	84	21	170
知的障害＋肢体不自由		2	1	1	1	5
知的障害＋聴覚障害			1			1
肢体不自由					3	3
肢体不自由＋知的障害			1	2		3
重症心身障害	7	1				8
言語発達障害等				11	189	200
視覚	1				1	2
保健				3	30	33
適性					1	1
未決定					22	22
計	17	44	63	176	572	872

第４　医療事業

１　診　　療

・小児科

・整形外科

・耳鼻咽喉科

（１）小児科

表４－１　小児科の診断区分状況　　（単位：人）

診断区分		就学前						小学校		中学生	計	%
		０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	低学年	高学年			
知的障害	知的障害	3	4	22	34	41	41				145	10.2
	ダウン症候群	1	4	10	6	2	7				30	2.1
	その他の症候群		4	8	3	2	5				22	1.6
	てんかん水頭症			2							2	0.14
知的障害＋肢体不自由				5	1						6	0.42
肢体不自由＋知的障害		1		2		2					5	0.35
自閉症＋知的障害				48	78	86	98	6		2	318	22.5
自閉症（アスペルガー含）				24	115	122	194	9			464	32.8
ＡＤＨＤ・ＬＤ				7	17	26	45	3			98	6.9
言語発達遅滞（吃音含）				27	32	48	51	3			161	11.4
脳性麻痺（CP/二分脊椎　等）				1				1			2	0.14
聴覚障害												0
知的障害＋聴覚障害							1				1	0.07
視覚障害												0
重症心身障害			1	4	2		3				10	0.71
保健（MD・発達性協調運動障害･心疾患　等）		1	5	15	6	24	21	2			74	5.2
適性（正常域・境界域）		1	2	9	10	10	31	7			70	4.9
性格行動（反応性愛着障害・チック　等）					3	2	2				7	0.49
その他												0
合計		7	20	184	307	365	499	31	0	2	1415	100.0

注）実人員は 1007 人である。

（2）整形外科

・整形外科管理数　709 名

表４－２　整形外科の診断区分状況（新規）　　（単位：人）

診断区分		就学前							小学生	他	計	%
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳				
知的障害	知的障害										0	0
	ダウン症候群		4		1		1				6	7.4
	脳性麻痺	3	3								6	7.4
	中枢性協調障害										0	0
運動発達遅滞		10	29	6	1	1	2				49	60.4
神経・筋疾患					1						1	1.2
骨・関節疾患			1		2	5	3	1			12	14.8
後天性要因による運動障害			1								1	1.2
二分脊椎											0	0
その他の先天性障害		1	1								2	2.5
その他			1	2	1						4	4.9
計		14	40	8	6	6	6	1	0	0	81	100.0

注）（1）年齢は満年齢である。
（2）その他の先天性疾患には、染色体異常・症候群等を含む。
（3）その他には、歩容異常・外反偏平足・側弯症等も含む。
（4）運動発達遅滞には、WEST 症候群等のてんかん発作の児も含む。
実人数は 81 名

表４－３　整形外科の診断区分状況（再診）　　（単位：人）

診断区分		就学前							小学生		中学	計	%
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年			
知的障害	知的障害				8				2	3		13	2
	ダウン症候群		8	19	17	5	11	15	13	12	1	101	16.1
	脳性麻痺		9	7	13	9	13	28	25	19	13	136	21.7
	中枢性協調障害			1					1		1	3	0.5
運動発達遅滞		2	42	88	18	2	5	3	2			162	25.8
神経・筋疾患					3							3	0.5
骨・関節疾患				17	29	22	12	16	7	4		107	17.0
後天性要因による運動障害			1		1		3	2				7	1.1
二分脊椎									2	4		6	1.0
その他の先天性障害			3	8	15	12	5	11	10	8	10	82	13.1
その他			2	3	1	1			1			8	1.3
計		2	65	143	105	51	49	75	63	50	25	628	100.0

注）（1）年齢は満年齢である。
（2）その他の先天性疾患には、染色体異常・症候群等を含む。
（3）その他には、歩容異常・外反偏平足・側弯症等も含む。
（4）運動発達遅滞には、WEST 症候群等のてんかん発作の児も含む。
実人数は 292 名

表４－４　整形外科の装具作成状況（年齢別）　（単位：件）

装具	就学前							小学生		他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年	中学	
姿勢保持装置			4	5			7	1			17
保護帽				1	1		5	1	1	1	10
足底板装具		4	35	23	14	11	9	14	9	5	124
短下肢装具					1	2		4			7
バギー・車いす							6	1	3	1	11
手の装具											0
股装具											0
側弯矯正装具										1	1
長下肢装具											0
歩行器							1				1
カーシート						1	3				4
起立保持具					1	1		1	1		4
計	0	4	39	29	17	15	31	22	14	8	179

注）年齢は満年齢である。

表４－５　整形外科の装具作成状況（診断別）　（単位：件）

装具	知的障害				神経・筋疾患	運動発達遅延	後天性要因による運動障害	骨・関節疾患	その他の先天性疾患	二分脊椎	その他	計
	知的障害	ダウン症候群	脳性麻痺	中枢性協調障害								
姿勢保持装具		3	7			2			5			17
保護帽		1	5				1		3			10
足底板装具	5	26	12	1	1	31	34	1	11		2	124
短下肢装具			4						3			7
バギー･車いす		2	5						4			11
手の装具												0
股装具												0
半長靴												0
側弯矯正具									1			1
長下肢装具												0
歩行器									1			1
カーシート		2	1						1			4
起立保持具			1						3			4
計	5	34	35	1	1	33	35	1	32	0	2	179

表４－６　整形外科のエックス線写真部位状況　（単位：件）

検査名	就学前							小学生		その他	計
	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	６歳	低学年	高学年		
足部				1	1		2		2	1	7
脊柱				1		1				6	8
股関節		2	2	3	2	5	1	2	1	3	21
下肢											0
頸椎				3		1	1	1	1		7
胸部											0
頭部											0
腰椎											0
計	0	2	2	8	3	7	4	3	4	10	43

注）（１）年齢は満年齢である。
　　（２）実人数は 43 人である。

（3）耳鼻咽喉科

・当センターの耳鼻咽喉科の診療目的は、聴覚の管理や疾病の早期発見、早期治療である。
・1 日の予約枠は 6 ～ 7 枠に設定した。予約から受診までの期間が長期化していたため、別枠で緊急枠を設定し、特に聞こえに心配があり聴力検査まで長期間待つのは危険だと判断した子どもが早めに検査が出来るような体制をとった。
・耳鼻科初診実人数は 146 名、継続延べ人数は 88 名、継続実人数は 58 名であった。
・新規受診の主訴が「ことばが遅い」は 119 名（81.5% ）、「聴力確認希望」は 6 名（4.1% ）「発音が悪い」は 16 名（11.0% ）であった。
・ファイバースコープ検査を施行したのは新規 3 名、継続 1 名であった。
・脳波検査・ABR 検査は 0 件であった。
・中央療育センターへ、ASSR 目的で 2 名紹介した。他、他院へ紹介状を作成したのは 5 名（OAE 検査目的 2 名、中耳炎治療目的 2 名、転居に伴う他院紹介 1 名 ）であった。
・ST 開始に伴う聴力検査は 16 名であった。

表 4 － 7　耳鼻咽喉科の診断区分別状況（新規）　　（単位：件）

診断区分	就学前							小学生	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	低学年		
正常		2	24	39	12	15			92	39.5
難聴の疑い		6	21	16	5	2			50	21.5
難聴					1				1	0.3
滲出性中耳炎				3	2	2			7	3.0
急性中耳炎			1	2					3	1.3
耳垢塞栓		2	29	27	8	7		1	74	31.8
アデノイド増殖症		1			2				3	1.3
粘膜下口蓋裂									0	0.0
鼻咽腔疾患									0	0.0
その他				1	1	1			3	1.3
計	0	11	75	88	31	27	0	1	233	100.0

注）（1）年齢は満年齢である。
（2）複数病名の件数とする。実人数は 146 名であった。
（3）その他には、急性鼻炎・アレルギー性鼻炎・感冒があった。

表４－８　耳鼻咽喉科の診断区分別状況（再診）　（単位：件）

診断区分	就学前							小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
正常			4	10	5	5	3	1				28	18.8
難聴の疑い			3	11	8	7	1					30	20.1
難聴					1	2	1		1		1	6	4.0
滲出性中耳炎				2	5	4	1					12	8.0
急性中耳炎												0	0.0
耳垢塞栓			7	15	12	8	6	13	2	3	1	67	45.0
アデノイド増殖症				1								1	0.7
粘膜下口蓋裂												0	0.0
鼻咽腔疾患												0	0.0
その他				2	3							5	3.4
計	0	0	14	41	34	26	12	14	3	3	2	149	100.0

注）（1）年齢は満年齢である。
（2）複数病名の件数とする。継続実人数は 58 名であった。
（3）その他には、右外耳道閉鎖症・右小耳症・急性鼻炎があった。

表４－９　聴力検査　（単位：件）

区分		就学前							小学生		中学生	高校生	計
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年			
自覚的聴力検査	BOA			1									1
	COR		8	50	53	17	12	1	3				144
	Peep-Show			4	27	15	22	1	1	1			71
	標準純音聴力検査											1	1
	プレイオージオ												0
合計		0	8	55	80	32	34	2	4	1	0	1	217
他覚的聴力検査	OAE		5	45	60	22	28	2	3	1		1	167
	ティンパノメトリー			7	13	7	11		2	1		1	42

注）（1）年齢は、満年齢である。
（2）聴力検査は医師の指示のもと、言語聴覚士（ST）が実施している

（4）診断書等発行

表4－10　診断書等発行状況　　（単位：件）

診断書　等	小児科	整形外科	耳鼻咽喉科	計
特別児童扶養手当診断書	56	2		58
障害児福祉手当診断書	3	6		9
身体障害者手帳診断書		28		28
精神障害者手帳診断書	4			4
重心判定書類	4			4
医師意見書	484			484
私学助成診断書	44			44
補装具支給意見書（特例含む）		19		19
治療用具製作指示装着証明書		133		133
その他の診断書		8		8
回答書	60			60
紹介状	273	13	7	281
日常生活用具給付についての意見書		8		8
訪問リハ指示書（未記入）				0
訪問看護指示書（未記入）				0
計	928	217	7	1152

2 （リ）ハビリテーション

（1）理学療法（PT）

・個別治療は医師の指導監督の下、理学療法士６名（内、専任２名、兼任１名・非常勤２名）が施設基準の障害児者リハビリテーションに基づいて行った。

・１名５月退職に伴い１名欠員の状況。

・対象は運動障害・運動発達遅滞をもつ子どもが中心である。当センターではボイタ法を取り入れた治療を中心に、子どもの障害状況や家庭の状況にあわせた指導・援助を行っている。治療内容が、子ども・家族の日常生活の改善や向上につながるように努めている。

・2025 年度の新規児は 45 名であった。（表 4-11）

・新患数の増加、管理数の増加に伴い、整形外科の医師とともに、開始基準や終了基準の見直しを行った。それに伴い歩容異常の新患は減少傾向。

・運動発達の遅れに加え、親から睡眠・食事・泣きなどの生活場面での“育児困難”と、対人関係の取りにくさの訴えがあった子どもが多かった。

・新患時に両親が就労しており、すでに保育園に入っているケースが増えている。

・生活支援の中で、椅子の作成、個別治療の中で摂食指導も行った。

・理学療法を実施するにあたり、携帯酸素の使用や気管切開等、特に呼吸機能に配慮を必要とする児が数名いた。

表４－11　PT 開始年齢別・区別状況（新規）　　（単位：人）

区	就学前								計	%
	０歳 ６ケ月未満	０歳 ６ケ月以上	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	６歳		
千　種　区		3	7	1					11	24.4
守　山　区		2	8	1	1	1	1		14	31.1
名　東　区		3	12	1	1		2	1	20	44.5
計	0	8	27	3	2	1	3	1	45	
%	0.0	17.9	60.0	6.6	4.5	2.2	6.6	2.2		100.0

注）年齢は、訓練開始時の満年齢である。

表４－12　PT 診断区分別状況（新規）　（単位：人）

主診断名	就学前								計	%
	０歳 ６ケ月未満	０歳 ６ケ月以上	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	６歳		
脳性麻痺		1 (1)	1						2 (1)	4.5
後天性要因による運動障害			1 (1)						1 (1)	2.2
その他の運動障害		1 (1)	1			1		1	4 (1)	8.8
運動発達遅滞		6 (3)	18	1					25 (3)	55.6
知的障害に伴う運動発達遅滞			3	2	1		1		7	15.6
二分脊椎			1						1	2.2
ダウン症候群							1		1	2.2
その他の遺伝子疾患			1		1				2	4.5
歩容異常							1		1	2.2
その他			1						1	2.2
計	0	8 (5)	27 (1)	3	2	1	3	1	45 (6)	100.0

注）（１）年齢は、訓練開始時の満年齢である。
（２）（　）内は、その子どものうちで、訓練開始時の移動能力が移動不可～寝返りの段階にある子どもの数をあげた。
（３）その他の遺伝子疾患は染色体異常、遺伝子異常をしめす。
（４）その他は整形外科的疾患によるものである。
（５）歩容異常とは発達性強調運動障害（DCD）や発達障害（ASD 等）によるものである。

表４－13　PT 年齢別・区別状況（継続）　（単位：人）

区	就学前						小学生		中学生	高校生	計	%
	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	低学年	高学年				
千種区	1	5	13	11	6	3	12	5	1		57	33.9
守山区		12	9	10	5	5	10	10	6		67	39.9
名東区		8	10	4	2	7	5	4	3	1	44	26.2
計	1	25	32	25	13	15	27	19	10	1	168	
%	0.6	14.9	19.1	14.9	7.7	8.9	16	11.4	5.9	0.6		100.0

注）年齢は、学年齢である。

表４－14　PT 診断別状況（新規＋継続児）　　（単位：人）

診断区分	０歳 2025 年度生まれ	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	低学年	高学年	中学生	高校生	計	%
脳性麻痺		1	2		1		3 (1)	9 (1)	6 (2)	4 (2)	1	27 (6)	12.7
後天性要因による運動障害		1 (1)		2				1	1	1		6 (1)	2.8
その他の運動障害	1 (1)		1	2	3	2	3 (1)	3	3 (2)			18 (4)	8.5
運動発達遅滞		15 (1)	16	5	2	3						41 (1)	19.2
知的障害に伴う運動発達遅滞		3	9	16	5	4	1	2	1			41	19.2
二分脊椎		1	1		1		1		2			6	2.8
ダウン症候群			7	4	5		3	5	1			25	11.7
その他の遺伝子疾患			3 (1)	6 (1)	7 (3)	2	6 (3)	5	4	4 (2)		38 (10)	17.8
歩容異常					1	2	2	2				7	3.4
その他			1			1			1	1		4	1.9
計	1 (1)	22 (2)	40 (1)	35 (1)	25 (3)	14	19 (5)	27 (1)	19 (4)	10 (4)		213 (22)	
%	0.4	10.3	18.8	16.4	11.8	6.6	8.9	12.7	8.9	4.8	0.4		100.0

注）（１）2025 年度内に管理をした全ての子どもの状況を示す（年度内終了児を含む）。
（２）年齢は、学年齢である。「0 歳児、2025 年度生まれ」は、2025 年 4 月 2 日以降生まれの子どもである。
（３）診断は、2026 年 3 月末時点（終了時はその時点）の診断である。
（４）（　）内は、その子どものうちで移動不可～寝返りの子どもの数をあげた。2025 年 3 月末（終了時はその時点）の状態である。
（５）その他は心疾患・整形外科的疾患によるものである。
（６）歩容異常とは発達性強調運動障害（DCD）や発達障害（ASD 等）によるものである。
（７）移動不可～寝返りの子ども 22 名のうち 19 名は重症心身障害児である。（大島の分類）

表４－15　PT 児童所属状況　　（単位：人）

	在宅	就園前グループ 月1回	就園前グループ 週1回	通園待機	通園施設	幼保稚園	児童デイサービス	小学生 通常級	小学生 特別支援学級	小学生 特別支援学校	中学生 通常級	中学生 特別支援学校	高校生 特別支援学校	計
人員	8	2	39	4	29	72	2	8	17	21	2	8	1	213
%	3.8	0.9	18.3	1.9	13.6	33.9	0.9	3.8	7.9	9.9	0.9	3.8	0.4	100.0

注）終了児はその時点の、継続児は 2025 年 3 月末時点の状況である。

表４－16　PT 終了等の状況　（単位：人）

目標達成	評価のみ	転院・転居	高校卒業	死亡	中断	計
50	0	7	0	0	0	57

注）当センターの管理は、高校卒業までである。

表４－17　PT 診断区分別状況（終了）　（単位：人）

診断区分	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	６歳	低学年	計	%
脳性麻痺			1				1	1	3	5.3
後天性要因による運動障害				1					1	1.8
その他の運動障害				2					2	3.5
運動発達遅滞		6	6	1	2	1			16	28.0
知的障害に伴う運動発達遅滞			7	4	1	1	1		14	24.6
二分脊椎				1					1	1.8
ダウン症候群			1	3	3		2	2	11	19.3
その他の遺伝子疾患			1	2			2		5	8.7
歩容異常				1	2	1			4	7.0
計	0	6	16	15	8	3	6	3	57	100.0

注）年齢は、終了時の満年齢である。

表４－18　PT 月別状況　（単位：件）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	平均
実人員	139	138	129	136	128	126	128	121	120	125	130	131	1,551	129.0
延人員	250	276	258	270	215	244	264	227	205	233	236	235	2,913	242.8
月管理数	171	168	163	163	158	159	159	159	157	158	161	161		

注）（１）一人あたりの訓練頻度（延人数÷実人数）は月平均 1.9 回であった。
（２）担当児全員の頻度（延人数÷月管理数）は月平均 1.5 回であった。
（３）実際の訓練回数は、必要に応じ週１～月１回程度である。

（2）作業療法（OT）

・作業療法士３名、（うち新規職員１名）体制で行った。

・医師の指導監督の下、作業療法士３名が施設基準の障害児（者）リハビリテーションに基づいて個別訓練を実践した。

・OT が必要な子どもの数やニーズが多い現状の中で、不器用さをはじめとした協調運動の困難さ、 感覚面の発達の偏りによる生活や集団における不適応、家族支援等が必要な就学前の子どもを主たる対象とした。

・処方から３カ月以内に訓練が開始できることや、月１回以上の訓練頻度を保障するために処方数（表４－26 の処方数参照）を設定した。

表４－19　OT 開始年齢別・区別状況（新規）　　（単位：人）

区	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	６歳	計	%
千種区			3	1	4	2		10	23.3
守山区			1	4	10	4		19	44.2
名東区			1	5	4	4		14	32.6
計	0	0	5	10	18	10	0	43	100.0

注）年齢は、訓練開始時の満年齢である。

表４－20　OT 診断別状況（新規）　　（単位：人）

診断区分		０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	６歳	計	%
脳性麻痺										0.0
後天性要因による運動障害				1					1	2.3
発達性協調運動障害					3	3	3		9	20.9
運動発達遅滞										0.0
二分脊椎										0.0
ダウン症候群							1		1	2.3
染色体異常										0.0
知的障害				1	1	1	2		5	11.6
境界域										0.0
ADHD					2	2			4	9.3
ASD	知的障害を伴う			3	2	5	2		12	27.9
	知的障害を伴わない				2	5	2		9	20.9
その他						2			2	4.7
計		0	0	5	10	18	10	0	43	100.0

注）（１）年齢は、訓練開始時の満年齢である。
（２）ASD ＋境界域は、ASD（知的障害を伴わない）に含まれている。

表４－21　OT 年齢別・区別状況（継続）　（単位：人）

区	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年	計	%
千種区				1	2	7	1	1	12	31.6
守山区					4	10	1		15	39.5
名東区			1	2	3	3	1	1	11	28.9
計	0	0	1	3	9	20	3	2	38	100.0

注）年齢は、学年齢である。

表４－22　OT 診断別状況（新規＋継続）　（単位：人）

診断区分		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年	計	%
脳性麻痺								1	2	3	3.7
後天性要因による運動障害				2			1			3	3.7
運動発達遅滞										0	0.0
二分脊椎										0	0.0
ダウン症候群							1			1	1.2
染色体異常							1			1	1.2
知的障害				1	1	2	3	1		8	9.9
境界域										0	0.0
ADHD					3	4	3	1		11	13.6
ASD	知的障害を伴う			3	3	5	8			19	23.5
	知的障害を伴わない				3	8	9			20	24.7
発達性協調運動障害					3	5	4			12	14.8
その他						3				3	3.7
計		0	0	6	13	27	30	3	2	81	100.0

注）（1）2025 年度内に管理した全ての子どもの状況を示す（終了児を含む）。
（2）年齢は、学年齢である。

表４－23　OT 管理児所属状況　（単位：人）

	在宅	療育グループ	通園施設	保育園 幼稚園	小学校 通常級	小学校 特別支援学級	小学校 特別支援学校	中学校 特別支援学級	計
人員	1		15	62	2	1			81
%	1.2	0.0	18.5	76.5	2.5	1.2	0.0	0.0	100.0

表４－24　OT 終了等の状況　（単位：人）

区　分	目標達成	就学のため	転院・転居	クール終了	中断	計
人員	12	9	2	4	0	27

※クール終了は、目標達成、就学、転院、中断以外をさす。

表４－25　OT 診断別状況（終了）　（単位：人）

診断区分		０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	低学年	高学年	計	%
脳性麻痺										0	0.0
後天性要因による運動障害								1		1	3.7
運動発達遅滞										0	0.0
二分脊椎										0	0.0
ダウン症候群										0	0.0
染色体異常										0	0.0
知的障害						1	1			8	29.6
境界域										0	0.0
ＡＤＨＤ						2	3			5	18.5
ＡＳＤ	知的障害を伴う				1	3	5			9	33.3
	知的障害を伴わない						7			7	25.9
発達性協調運動障害							2			2	7.4
その他								1		4	14.8
計		0	0	0	1	6	18	2	0	27	100.0

注）（１）年齢は、終了時の学年齢である。
　　（２）ASD ＋境界域は、ASD（知的障害を伴わない）に含まれている。

表４－26　OT 月別状況　（単位：件）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	平均
処方数	3	6	5	3	3	2	4	3	2	4	3	7	45	3.75
実人員	38	39	44	46	41	41	51	43	48	55	51	55	552	46
延人員	60	63	70	81	59	72	89	68	86	93	74	97	912	76
月管理数	42	45	50	54	56	59	60	61	65	67	68	72		
全担当児の頻度（回）	1.43	1.40	1.40	1.50	1.05	1.22	1.48	1.11	1.32	1.34	1.09	1.35	15.69	1.31

注）（１）実施児１人あたりの訓練頻度（延べ人数÷実人数）は、月平均 1.65 回であった。
　　（２）担当児全員の頻度（延べ人数÷月管理数）は、月平均 1.31 回であった。

（3）言語聴覚療法（ST）

・個別治療は医師の指導監督の下、言語聴覚士４名（内１名８月より産休育休、内１名１月より休職、内１名２月より非常勤勤務開始）が施設基準の障害児（者）リハビリテーションに基づいて行った。上記３名の内訳事情により、実働は言語聴覚士１名体制で行った。

・ST が必要な子どもの数やニーズの声が多い中で、言語・コミュニケーションに何らかの困難をもち、特に発達全体のフォローや家族支援が必要な就学前の子どもを主たる対象とした。

・体制減に伴い、処方数と管理数の調整と、個別治療以外の業務（構音･吃音児対象のフォロー相談、巡回療育、保育所等訪問等）を縮小した。処方から２カ月以内の訓練開始や月１回以上の訓練頻度保障することは継続した。

・他施設 ST への紹介数は 42 件（2024 年度 66 件、2023 年度 54 件）であった。他施設 ST とお互いの施設の状況を共有する連携を継続して行った。

・言語聴覚士３名は、週１回の耳鼻咽喉科の各種聴覚検査（BOA・COR・peep-show・ティンパノメトリ・DPOAE）を担当した。

表４－ 27　ST 開始年齢別・区別状況（新規）　　（単位：人）

区	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	６歳	計	%
千　種　区					1	1		2	7.7
守　山　区				2	6	11		19	73.1
名　東　区					2	2	1	21	80.8
計	0	0	0	2	9	14	1	26	
%	0	0	0	7.7	34.6	53.8	3.8		100

注）年齢は、訓練開始時の満年齢である。

表４－ 28　ST 診断別状況（新規）　（単位：人）

診断区分		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計	%
脳性麻痺									0	0.0
知的障害							1		1	3.8
境界域									0	0.0
ASD	知的障害をともなう				1	5	3		9	34.6
	境界域								0	0.0
	知的障害をともなわない						1		1	3.8
LD									0	0.0
ADHD									0	0.0
言語発達遅滞					1	4	5	1	11	42.3
ダウン症候群							1		1	3.8
構音障害							3		3	11.5
吃音									0	0.0
難聴									0	0.0
計		0	0	0	2	9	14	1	26	100.0

注）年齢は、訓練開始時の満年齢である。

表４－ 29　ST 区別状況（継続）　（単位：人）

区	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	計	%
千種区					1	7	1	9	18.4
守山区					8	9	6	23	46.9
名東区					4	10	3	17	34.7
計	0	0	0	0	13	26	10	49	
%	0.0	0.0	0.0	0.0	26.5	53.1	20.4		100.0

注）（1）年齢は、学年齢である。
（2）2024 年度からの継続児の状況を示す。

表４－ 30　ST 診断別状況（新規＋継続）　（単位：人）

診断区分		０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	低学年	計	%
脳性麻痺								1	1	1.3
知的障害						2	5	1	8	10.7
境界域							1		1	1.3
ASD	知的障害をともなう			1	3	11	11	2	28	37.3
	境界域						1	1	2	2.7
	知的障害をともなわない						2		2	2.7
LD									0	0.0
ADHD									0	0.0
言語発達遅滞					1	8	11	1	21	28.0
ダウン症候群						1	2		3	4.0
構音障害						2	3	4	9	12.0
吃音									0	0.0
難聴									0	0.0
その他									0	0.0
計		0	0	1	4	24	36	10	75	100.0

注）（１）2025 年度に管理した全ての子どもの状況を示す（終了児を含む）。
（２）年齢は、学年齢である。
（３）構音障害に分類した子どもの 56％はその他の障害（ASD,ADHD, 知的障害 ,DCD）をあわせもっていた。

表４－ 31　ST 管理児所属状況　（単位：人）

	在宅	就園前グループ	児童発達支援事業所	通園施設	保幼育稚園園	小学校			計
						通常級	特別支援学級	特別支援学校	
人員	0	0	0	15	50	4	5	1	75
%	0.0	0.0	0.0	20.0	72.1	5.3	6.7	1.3	100.0

注）2025 年度内に管理した全ての子どもの状況を示す（終了児を含む）

表４－32　ST 終了等の状況　　（単位：人）

目標達成	評価のみ	クール終了	就学のため		転居	転院	中断	計
			終了	他医療機関へ移行				
				ST				
26	1	0	11	4	1	0	1	44

表４－33　ST 診断別状況（終了）　　（単位：人）

診断区分		就学前						小学生	計	%
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年		
脳性麻痺								1	1	2.2
知的障害							3	1	4	9.1
境界域							1		1	2.2
ASD	知的障害をともなう					4	6	2	12	27.6
	境界域						3		3	6.8
	知的障害をともなわない						1		1	2.2
LD									0	0.0
ADHD									0	0.0
言語発達遅滞						3	9		12	27.3
ダウン症候群							2		2	4.5
構音障害						1	2	4	7	15.9
吃音									0	0.0
難聴									0	0.0
その他							1		1	2.2
計		0	0	0	0	8	28	8	44	100.0

注）年齢は終了時の学年齢である。

表４－34　ST 月別状況　　（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
処方数	1	5	2	3	2	6	1	3	4	2	0	0	29	2.4
実人員	50	43	44	43	30	30	36	33	37	42	43	41	472	39.3
延人員	68	57	60	59	33	37	50	46	56	59	61	56	642	53.5
月管理数	51	47	50	45	34	37	39	39	41	45	44	45		

注）（1）実施児1人あたりの訓練頻度（延人数÷実人数）は、月平均 1.35 回であった。
（2）担当児全員の頻度（延人数÷月管理数）は、月平均 1.23 回であった。

（4）（リ）ハビリスタッフにおける生活支援

①　保育（通園）との連携

・通園スタッフ１名、通園主任１名、（リ）ハビリスタッフ２名、発達相談員１名による連携会議を月１回実施した。通園の各クラスの状況や、通園児の発達相談･小児科受診の状況、全体行事に向けた通園部と相談診療部･地域支援調整部との連携の計画などを話し合った。

②　療育グループとの連携

ⓐ就園前グループ

・就園前グループ実施状況参照。

ⓑ並行グループ

・並行グループ実施状況参照。

③　摂食・嚥下機能療法

・医師の指導監督の下、（リ）ハビリスタッフ（PT･OT･ST）７名で指導･援助を行った（内１名８月より産休育休）。

・摂食・嚥下機能療法が必要な子どもの数やニーズが多い中で、麻痺等の運動障害に起因する摂食･嚥下障害をもつ子どもや運動発達の遅れ等に伴う食事機能の未熟さをもつ子ども、運動に遅れはないが摂食嚥下障害が認められる子ども（およびその保護者）を主な対象とした。

・指導・援助は、ⓐ通園での給食、ⓑ摂食訓練会において行った。

ⓐ通園での給食

・通園児 43 名中 19 名が摂食・嚥下機能訓練の対象であった。

・通園スタッフと訓練目標や介助方法を一致させるため、各子どもの支援計画を作成した。

表４－ 35　給食指導対象児の年齢別状況　（単位：人）

０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	計
0	0	5	7	2	5	19

注）年齢は、学年齢である。

表４－ 36　給食指導・援助の月別状況　（単位：件）

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	計
29	34	49	32	22	18	36	25	39	29	29	21	363

注）（１）クラス全体への評価・援助を含む。
（２）複数の（リ）ハビリスタッフで介入したケースがあったため、単位を件とした。

ⓑ摂食訓練会

・摂食訓練会を年間 18 回設定した。1 回につき最大 5 名、子ども 1 名につき（リ）ハビリスタッフが 1 から 2 名体制で個別指導を中心とした内容で実施した。必要に応じて、評価・治療に加え、他施設への引継ぎを行った。

・年間管理数は 76 名、その内 0 ～ 9 歳の子ども 48 名に対し、評価・治療を行った。所属内訳は、療育グループ 13 名、通園待機 1 名、保育園・幼稚園 20 名、小学生 3 名、通園児 11 名であった。

・新規児童は 18 名（2024 年度と比して 3 名減）であった。

・昨年度と同様に未就園児の人数が多く、口腔機能が変わりやすい時期であることや、場所に慣れることが難しく打ち解けることに回数が必要な子どもに対して、継続的なフォローが必要であった。そのため上記以外の日程を年間 25 回設定し延べ 43 回実施した。

表 4 － 37　摂食訓練会実施児の診断別状況　（単位：人）

診断区分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	計	%
重症心身障害				1		2		3	6.4
脳性麻痺								0	0.0
後天性要因による運動障害			1					1	2.1
ダウン症候群		4	2	2	1	1	2	12	25.5
その他の染色体			2			1		3	6.5
摂食機能障害					1			1	2.1
運動発達遅滞	1		1	2	1			5	10.6
知的に伴う運動発達遅滞	1	6	6	4	3	1	1	22	44.7
その他		1						1	2.1
計	2	11	12	9	6	5	3	48	
	4.3	21.3	25.5	19.1	12.8	10.6	6.4		100.0

表 4 － 38　摂食訓練会月別実施数　（単位：件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
4	5	11	8	6	4	3	6	6	3	6	6	68

第５　通園事業

１　施設概要

（１）定　　員　　43 名

（２）対　　象

名古屋市守山区、千種区、名東区在住のすべての障害、発達の遅れのある子ども、またはその疑いのある子ども。（0 歳～ 6 歳）

（３）クラス編成

原則として生活年齢を基準に編成し、子どもの運動的な発達、医療的ケアなどの状況に応じて配慮する。

（４）通園形態

親子通園及び単独通園

月・火・木・金／９：45 ～ 15：00　水／９：30 ～ 12：45

（５）親子通園の種類

① 新入園児は年齢やこれまでの集団での経験を考慮し一定期間週３日の親子通園とする。

② 新入、進級に関わらず、年間を通して毎週水曜日は親子通園とするが、保護者プログラム実施時には単独とする。

（６）通園バス

・水曜日以外、マイクロバス（29 人乗り）1 台、10 人乗りワゴン車２台で３区を運行。

・水曜日は、ご希望がある方に、都度、運行ルート、バス停を変えて、送迎車を出して運行。

２　療育目標

・24 時間の生活リズムを整え、発達の土台となる健康なからだづくりを積極的に行う。

・子どもの好きなことに共感する人とあそび、生活するなかで、人との信頼関係をつくる。

・くり返しの日課のなかで、次の見通しを持って生活し、自分でできることをひろげていく。

・好きなことを土台にあそびをひろげ、からだを動かすこと、物にかかわることに楽しくとりくむ。自分のからだから外の世界へと関心をひろげ、人や物に働きかける力を育てる。

・楽しさや達成感を感じられることを大切にしたあそびのなかで、もっとあそびたいという要求を高める。

・気持ちを伝えたいという要求をもち、相手からの働きかけを受けとめ、視線やまなざし、表情全体、身ぶりやサイン、ことばなどで自分の気持ちを伝える力を育てる。

3　日課

表５－１　通園部の日課

時間	単独登園日	親子登園日
8:50	通園バス出発	
9:00	見守り一時支援（9:00 ～ 10:00）	登園　健康チェック・排泄
9:45	直接登園　受け入れ開始	
9:50	通園バス到着 健康チェック・排泄	リズム運動・季節の歌（全体で） 水分補給
10:10	リズム運動・季節の歌（全体で） 水分補給 おはようのつどい	おはようのつどい とりくみ
11:00	とりくみ 排泄・着替え・給食準備	排泄・着替え・給食準備 給食
11:50	給食	ハミガキ・たんれん・排泄・着替え 絵本・さようならのつどい
12:30	ハミガキ・たんれん・排泄・着替え	降園
12:45	絵本	
13:00	午睡	
14:20	排泄・着替え・水分補給 さようならのつどい	
14:50	通園バス出発	
15:00	直接降園 見守り一時支援（15:00 ～ 17:00）	

※クラスの子どもの状況により時間は異なる。

4　児童の状況

表５－２　通園部のクラス編成

クラス名	年齢・人数	担任数	クラスの特徴
う さ ぎ	５歳児１名 ４歳児２名 ３歳児５名 ２歳児２名 （８月に３歳児１名減、 ９月に２歳児１名増）	4	進級児５歳児1名・４歳児２名・３歳児２名（９月から1名） 新入児３歳児４名・２歳児２名（９月から３名） 染色体異常、両下肢麻痺、重症心身障害児、気管軟化症など医療的ケア／経管栄養２名・酸素対応１名 ２・３・４・５歳児の縦割り、歩行可能な子どもが２名のゆっくりとしたクラス。毎日のリズム運動やふれあいあそび、朝のつどいなど集団を感じられる時間、自分で姿勢を保ち、移動することを大切にしたことを積み重ねてきた。見たり聞いたりすること、感触あそびやからだを使ったあそびなど、繰り返し楽しむことで、期待がふくらみ、自分から向かう姿が増えた。また、ゆったりとした時間の中で保育者やお友だちに気持ちを表現したり、言葉でのやりとりがあるなど関わりが広がった。 進路／特別支援学校１名・就園２名・７名進級
と ん ぼ	５歳児８名	4	進級児５歳児８名／ MR・ASD・ダウン症・二分脊椎など医療的ケア／てんかん１名、導尿１名／未歩行児１名。 全員年長児のクラス。就学に向けて主体的に生活に向かう場面を大切に過ごしてきた。友だちとあそぶ心地よさや主張し合うこと、相手にたずねることも大切にしてきた。子ども同士の関わりを大切に過ごす中で少しずつ友だちへの興味・関心が広がり、関わり合う姿が増えていった。 進路／特別支援学校３名・特別支援学級５名
こ う ま	４歳児２名 ３歳児５名	4	進級児４歳児１名・３歳児１名、新入児４歳児１名・３歳児５名／ MR・ASD など　全員歩行可能。 からだを動かすことの好きな子が多く、動きの大きさにクラスの雰囲気が引っ張られてしまうこともあり、集団を意識しながらあそびや生活をつくっていくことを大切にしてきた。その中で保育者との関係づくりやお友だち同士の関わりも広がっていった。登園そのものに不安の強いケースがあり、保護者と相談しながら本人が安心しできることを大切に、登園を積み重ねることができた。 進路／就園１名・進級６名
きんぎょ	４歳児３名 ３歳児６名	3 ＋ P	進級児４歳児３名・新入児３歳児６名／ ASD・MR など医療的ケア／吸入１名 全員歩行可能。聴覚過敏やこだわり等ある子が複数名いるため、それぞれの安心できる場所やペースを大切に過ごしてきた。あそびでは泥や水、さまざまな素材を使って感触あそびをしてきた。感触あそびに抵抗がある子もいたが、年間を通して積み重ねる中で少しずつ受け止めが広がっていた。粗大運動やサーキットでも手を使ってあそぶようになり、挑戦する姿が広がっていった。保育者との関係を土台に、友だちにも興味・関心が広がり、子ども同士の関わりも増えていった。進路／就園２名・進級７名
あ ひ る	２歳児９名 （11 月から１名減）	4	新入児２歳児 10（11 月から9）名／ MR・ASD など 医療的ケア／経管栄養1名 全員歩行可能。4，5月は親子通園を丁寧に積み重ね、単独の時間を増やして、６月から週５日に移行した。保護者から保育者、お友だちへと安心出来る存在を広げ、子ども同士の関りが増えていった。後半には給食を早く食べ終えてからだを動かしたい子どもたちはホールでかくれんぼや走ることなどからだを動かすあそびに取り組んだ。年間を通して、からだをたっぷり使い、様々な素材に触れてあそぶことを大切に、好きなあそびや感覚を広げていった。 進路／就園４名・進級５名

表５－３　通園部の登園状況

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	合計
現員数	44	44	44	44	44	44	44	43	43	43	43	43	43
開所日数	18	20	21	16	14	20	22	18	18	18	18	18	221
延べ利用者数	557	619	752	614	503	695	819	662	662	677	647	659	7866
平均出席数	30.9	31	35.8	38.4	35.9	34.8	37.2	36.8	36.8	37.6	35.9	36.6	427.7
出席率	70.3	70.3	81.4	87.2	81.7	79	84.6	85.5	85.5	87.5	83.6	85.1	82.8

表５－４　通園部の障害種別状況

（単位：人）

障害種別	計
肢体不自由＋知的障害	10
知的障害	2
自閉症＋知的障害	29
自閉症	0
重心	2
聴覚障害	0
言語発達遅滞等	1
その他保健	1
計	45

注）年度途中退園児２名含む

医療的ケアの必要なケースは、吸引３名、経鼻栄養３名、導尿１名

表５－５　通園部の愛護手帳所持状況

（単位：人）

	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	計
１度				2	2
２度	2	5	2	3	12
３度	2	6	4		12
４度	5	3	1	4	13
未所持	4	2			6
計	13	16	7	9	45

注）年度途中退園児２名含む

表５－６　通園部の身障者手帳所持状況　（単位：人）

		２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	計
Ⅰ種	１　級			1	2	3
	２　級	2	3			5
	３　級			1		1
	４　級					0
	５　級					0
	６　級					0
Ⅱ種	１　級					0
	２　級					0
	３　級					0
	４　級					0
	５　級					0
	６　級					0
	未所持	11	13	5	7	36
	計	13	16	7	9	45

注）年度途中終了児２名含む

表５－７　通園部の区別状況　（単位：人）

区	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児	計
千　　種	5	9	2	2	18
守　　山	1	1	3	2	17
名　　東	7	6	2	5	20
計	13	16	7	9	45

注）年度途中終了児２名含む

表５－８　通園部の在園期間　（単位：人）

在園期間	児童数
１　年　未　満	2
１年以上２年未満	27
２年以上３年未満	4
３年以上４年未満	10
４年以上５年未満	2
計	45

注）年度途中終了児２名含む

表５－９　通園部の卒退園児の進路先　（単位：人）

	進路先		人数	計
卒園	特別支援学校	肢体	1	9
		知的	3	
		知的（重複）		
		その他		
	特別支援学級		5	
退園	保育園	公立	2	6
		私立	4	
	幼稚園	公立		3
		私立	3	
	認定こども園			0
	特別支援学校（幼稚部）			0
	その他（事業所）			0
	その他（転居）		2	2
	その他（児童発達支援）			0
計				20

注）年度途中終了児２名含む

表５－10　通園部の見守り一時支援月別件数　（単位：件）

月	開所日	利用者人数	延べ利用者数	日平均
4月	17	15	97	5.7
5月	19	17	162	8.5
6月	21	21	192	9.1
7月	15	22	107	7.1
8月	14	23	104	7.4
9月	18	24	173	9.6
10月	21	25	179	8.5
11月	17	30	183	10.8
12月	18	33	196	10.9
1月	18	33	202	11.2
2月	18	29	232	12.9
3月	17	31	220	12.9
計	213	304	2047	9.6

今年度より９時から10時で朝の見守り一時支援を開始した。保護者の方は朝から夕方の時間を合わせて申込をしている。
１日定員10名を基本に月・火・木・金の９時から10時、15時から17時で行う。
両親の就労や、家族の病気や習い事・行事などで必要な場合は水曜日も受け対応してきた。

5　行事

表５－11　通園部の行事実施状況

月	日	行事名
4	5（土）	入園・進級式
5	14（水）	親子遠足（東山動物園）
	17（土）	わくわくフェスタ
6	13（金）	プール開き
	18（水）	田植え体験（年長児）
		年長合宿
	26（木）	愛知県児童総合センターへのお出かけ
	27（金）	＊保護者は施設見学プログラム
7	2（水）	七夕のつどい
	5（土）	お父さんとあそぼう会（アートプログラム体験）
		＊お父さんプログラム（園庭整備）
		海のつどい＜小野浦海岸で海水浴＞
	15（火）	とんぼ・うさぎ・きんぎょ進級児
	17（木）	きんぎょ新入児・こうま・あひる
8	27（水）	ただじゅんさんのあそびっこステージ「どーんどーんどんとはれ」
	28（木）	粘土あそび大会
9	17（水）	創立記念特別親子プログラム 「みんなあつまれ！目と耳と心で楽しむ絵本ライブ」
	19（金）	プールじまい
	20（土）	緑ぽけまつり
10	25（土）	かぞくうんどう会
11	4（火）	稲刈り体験（年長児）
	22（土）	家族行事（南知多グリーンパレイでみかん狩り親子遠足）
12	17（水）	クリスマス会（親子マリンバコンサート）
	24（水）	親子おもちつき大会
1	7（水）	お正月のつどい（親子お正月あそび）
		雪のつどい＜平谷高原スキー場でそりあそび＞
	20（火）	とんぼ・うさぎ
	22（木）	きんぎょ・こうま・あひる
2	3（火）	節分のつどい
	11（水）	１年のまとめの行事（えがおまつり）
	25（水）	シャボン玉であそぼう（保護者会主催）
3		ひなまつりのつどい
	20（金）	卒園式
	25（水）	春のつどい（親子あそび・歌とスライド）

6　家族の状況と支援

表５－12　通園部の家族支援状況

取り組み	内　　容
2025 年度の特徴	・今年度は年間を通して出席率が高く、行事への参加も欠席が少なかった。水曜日に親子の送迎を行ったことも要因となっている。特に父親の行事への参加が多く、久しぶりに実施した園庭整備を通して交流が深まり懇親会などへの参加数はぽけっとが始まって以来最多となりオープンチャットも開設された。 ・９名の年長児が８名と１名に分かれてのクラス編成となったが、９名の年長児集団での交流を大切にした保育の中で、６月の卒園合宿など、年長児の行事に向かってきた。最寄りの保育園の年長児と一緒に田植え体験を計画、事前のとりくみとしてぽけっとの園庭で一緒にどろんこであそび、保育園に行くなど交流保育を行った。天候の心配で保育園は田植えに同行しなかったが交流を深めることができた。卒園前には、とりくみだけでなくみんなで一緒に給食を食べるなど生活の場面でも交流、卒園製作のカレンダー作りにとりくんだ。 ・家族支援や進路選びなどでは、その都度、懇談をして一緒に考え合うことを大切にしてきた。進路選びで必要なケースには園の見学に担任が付き添った。 ・モデル事業として朝の見守り一時支援が始まったことで、見守り一時支援を利用しない子どもたちを受け入れる時間をこれまでの９時30分から45分へと変更し、制度について説明をして対応してきた。 ・共働き家庭が多く、見守り一時支援の利用が多かったため、子どもの姿によって少人数になるようにグループ分けをして対応してきた。 ・家庭状況、子どもの姿から水曜日の午後も見守り一時支援事業を実施。また水曜日は保護者の希望を聞いて親子の送迎バスを実施、登園を保障した。 ・最寄りの保育園だけでなく近隣の公立保育園と４歳児が交流する機会をもつことができた。
家庭訪問	・年度当初の４月に家庭訪問を実施し、家庭の状況や保護者の思いなどを聞いた。
クラス懇談会 個人懇談会 両親懇談会	・５月、10 月にクラス懇談会を実施。保護者に保育計画を伝え、担任と保護者で子どもの姿を確認しあった。前半期と後半期に分けて親子で乗馬のとりくみを行った。 ・個別の懇談会を前半期・後半期（両親懇談）で実施。個別支援計画は保護者とのモニタリングを経て、個別支援計画担当者会議を行ってきた。その後、保護者に個別支援計画を確認していただき、クラス療育に繋げてきている。その他、進路において必要な場合に懇談を行った。
親子あそび 親子プール 家族行事	・毎週水曜を親子通園日とし、お誕生日会や保護者研修を行った。親子プールは曜日を替えて月一回各クラス、また行事の多い月や登園日の少ない月にはみんなのプールを実施した。 ・新入児は親子通園期間の中で、親子が触れ合い、楽しくあそぶ経験を通しながら、子ども理解を深め、よりよい親子関係を作るとともにあそびを通して親も楽しむことを大切にしてきた。 ・家族行事では、７月に講師をお招きして、親子でアートプログラム体験（大きな障子紙のにじみ絵）にとりくんだ。また、お父さん同士で昼食をとったり、園庭整備を行っていただいたりと、交流する時間をもった。 また、11 月には南知多グリーンバレイへお出かけし、みかん狩りやアスレボール、芝坂すべりを楽しんだ。 ・季節の節目にあるつどいを実施。講師を呼んだ親子のとりくみや、お誕生日会の際に親子あそびを行った。クラス懇談会の際には親子乗馬にとりくんだ。
保護者会の援助	・保護者会の予算で、外部のしゃぼん玉サークルにお願いし、「しゃぼん玉であそぼう」という取り組みを予定していたが、雨天のため延期。また、延期した日には外部のサークルが来られなかったため、職員が一緒に企画し、親子でのしゃぼん玉あそびに変更して実施した。 ・保護者会からの要望を一つひとつ受け止め、日々の保育につなげるようにした。

表５－13　通園部の保護者研修実施状況

日　時	内　　容	講　　師
4月16日 23日	在園児健診（進級児） 在園児健診（新入児）	ぽけっと所長　荒川医師
5月22日	親子乗馬体験（とんぼぐみ）	げんき牧場代表　加藤泰一氏
6月 4日	コミュニケーションの育ちに大切なこと	当センター　村手 ST
6月11日 18日	歯科検診・歯科講話	糸山歯科医院　糸山暁氏
6月13日	就学懇談会	教育センター　久賀氏
7月 4日	就園説明会	星ヶ丘保育園　近藤園長
7月 9日	作業療法士から見る“行動”の背景 ～昨年寄せていただいた感想を紐解いて考える～	ぽけっと　OT　２名
8月 6日	救命救急講習	名古屋市応急手当研修センター
9月 3日	先輩保護者との交流会	先輩お母さん３名
9月30日 10月 2日 7日 31日	親子乗馬体験	げんき牧場代表　加藤泰一氏
10月 8日	コミュニケーション研修	劇団うりんこ　小原ひろみ氏
10月15日	保護者会主催ダンス研修	野嶋順一ダンスアカデミー 野嶋順一氏
11月12日 11月19日	在園児健診	ぽけっと所長　荒川医師
11月26日	「こどもと絵本をひらくよろこび」	子どもの本専門店 「メリーゴーランド」 代表　増田喜昭氏
12月10日	先輩保護者との交流会	先輩お母さん５名
1月14日	『我が子の「ステキ」を見つける子育て』	NPO あいち障害者センター 理事長　近藤直子氏
3月11日 3月13日	サポートブック研修	通園部職員

7　通園地域ケア

表５－14　通園部の就園児アフターケア実施状況

日時	実施場所・内容	参加人数
8月24日（土）	ぽけっと・園庭プール	3名

あそび虫と同じ日に実施。保護者の方は近況を報告し合い交流を深めた。

・ぽけっとを経過した小学生・中学生を対象にプログラム９回実施した。参加希望人数や子どもの様子によってグループ分けをしてあそびづくりをした。ダンスでは、外部講師に来ていただき、季節のダンスにとりくみ、時には親子で楽しんだ。
・青年期の自主グループに部屋を貸出し、あそび虫クラブと同じ日に活動した。

表５－15　通園部のあそび虫クラブ・青年期のグループ実施状況

日時	実施場所・内容	参加人数
6月 7日（土）	ぽけっとで製作活動やボウリングを行った。 元気牧場で乗馬を行った。 青年期自主グループ	19名 11名 7名
7月23日（土）	ぽけっとで水あそびとキャンプの事前のとりくみをおこなった。	32名
7月24日（木）～ 7月26日（土）	小那比野外活動センター学齢期キャンプ	22名
8月23日（土）	ぽけっとで夏のお楽しみ会を行った。	25名
11月 8日（土）	ぽけっとでミニうんどう会を行った。 げんき牧場で乗馬活動を行った。	15名 12名
12月20日（土）	ぽけっとでクリスマス会を行った。	29名
1月17日（土）	ぽけっと：お正月あそび（福笑い、羽根つき） 千種スポーツセンターでプール活動を行った。 青年期	19名 5名 6名
3月14日（土）	ぽけっとで春のお楽しみ会を行った。	23名
参加延べ人数		225名

8　ボランティア

・中部善意銀行を通して申し込みのあった、夏季高校生ボランティアを多く受け止めた。
今年度も行事やあそび虫クラブのボランティア募集をし、天候で行事の日程変更があったことで少ない人数の受け入れとなった。

表５－16　通園部のボランティア受け入れ状況

内容	日数	延べ人数
週に１回または単発的な保育補助	14 日	26 名
夏季高校生ボランティア参加者	19 日	113 名 （72 名）
うんどう会、えがおまつり、粘土あそび大会での保育時補助	3 日	18 名 （夏季高校生ボランティア含む）
あそび虫クラブの補助	6 日	30 名 （夏季高校生ボランティア含む）
地域の子どもたち、家族を対象にしたあそびのイベント「わくわくフェスタ」、「緑ぽけまつり」で子どもたちとあそぶブースを担当	2 日	16 名

総延日数：44 日　　総延人数：162 名

第６　その他の事業

１　障害児相談支援事業

2015 年 4 月より事業を開始し、主に障害児通所支援及び障害福祉サービスの利用を希望する乳幼児から、概ね小学３年生までの児童の保護者に対し、基本相談及びサービス等利用計画、障害児支援利用計画の作成、定期的なモニタリングを実施してきている。職員体制としては、管理者１名（兼務）、相談支援専門員（常勤２名、非常勤１名、常勤兼務２名）で行ってきた。

移行については、千種区・名東区の相談支援部会で顔を合わせた関係づくりをすすめてきているが、時期によっては移行が難しく継続となることが課題である。守山区の医療的ケアさぽーと部会に参加し、現状を報告し地域の課題について話をしてきた。

また、必要に応じて担当者会議を開き、関係機関と情報の共有をすることを通して、必要な支援を考え合うようにしてきている。

表６－１　区別・年齢別状況　（単位：件）

区	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	低学年	高学年	計
千　種　区	1	6	13 (1)	18 (3)	12	8 (1)	34 (11)	7 (6)	99 (22)
名　東　区	3	7 (1)	16 (1)	13	7	13 (1)	35 (8)	6 (5)	100 (16)
守　山　区			1	7	10 (2)	5 (1)	16 (3)	3 (2)	42 (8)
そ　の　他							1 (1)		1 (1)
計	4	13 (1)	30 (2)	38 (3)	29 (2)	26 (3)	86 (23)	16 (13)	242 (47)

注）（　）内は年度内　終了児（事業所移行、セルフ、終了、転居、死亡）

表６－２　月別計画作成状況　（単位：件）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
計画案作成	17	11	19	20	16	27	24	11	8	8	40	42	243
本計画作成	46	32	37	12	18	19	22	19	24	11	8	26	274
モニタリング	25	23	19	14	8	21	30	14	26	19	21	16	236
家庭訪問	53	25	32	23	25	63	61	15	79	68	39	62	545

表６－３　月別基本相談状況　（単位：件）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
家庭訪問	3	3	4	5	2	8	4	2	3	9	7	2	52
来所	1		7		5	8	1			4		1	27
電話	22	6	3	5	6	3	7		1	9	6	9	77
計	26	9	14	10	13	19	12	2	4	22	13	12	156

表６－４　相談内容　（単位：件）

	サービス	発達・障害	子育て	幼保・学校	家族	余暇	その他	合計
合計	1270	38	19	37	52	1	30	1447

表６－５　サービス担当者会　（単位：件）

難事例情報共有	支援方法の共有
4	10

表６－６　月別会議等　（単位：件）

	区	会議名	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
自立支援連絡協議会	千種区	自立支援協議会事務局会議	1	1	1		1	1	1	1		1		1	9
		こども部会	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	11
		相談支援部会	1	1	1	1		1	1	1			1	1	9
		総会／フェスタ／他部会		1						1		2			4
	名東区	そだつ部会	1	1		1			1			1		1	6
		事務局会議	1	1	1	1				1	1	1	1	1	9
		自立支援協議会他部会									1	2			3
	守山区	自立支援協議会			1										1
		医ケア児さぽーと部会		1						1					2
運営連絡会	市					1				1					2
	4通園				1				1					1	3
	東部				1				1						2
	施設内		2	1	2	1	1		1	1	1	1		1	12

・自立支援連絡協議会では、子ども部会（千種区）やそだつ部会（名東区）に参加し、事業所や関係機関と情報の共有や事例検討などを行っている。

2　保育所等訪問支援事業

表６－７　保育所等訪問支援事業の実施件数　（単位：件）

区分	千種区	守山区	名東区	他区他市	計
保育園	1	2			3
こども園		1			1
幼稚園		2			2
計	1	5	0	0	6

表６－８　保育所等訪問支援事業の月別実施状況　（訪問実績は延べ件数）

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
利用者数	3	2	1	2	2	3	3	3	3	3	3	2	30
訪問実績	6	4	2	2	3	6	6	6	5	5	6	4	55

７名の訪問支援を行った。

期間は概ね６か月、月に１～２回訪問した。

継続児は３名、新規が３名だった。

3　名古屋市医療的ケア児支援スーパーバイザー事業

名古屋市医療的ケア児支援スーパーバイザー事業本格実施から 1 年半が経過。東ブロック（千種・名東・中・昭和）を担当している。今年度は愛知県と名古屋市合同で医療的ケア児と LTC（Life-Threatening Conditions: 生命を脅かされる状態）の実態調査を実施。市内に 729 名の医療的ケア児がいることが分かった。

1．事業内容

（1）コーディネーターに対するスーパーバイズ

（2）コーディネーターと医療、保健、福祉、教育等の関係機関等の連携の促進

（3）支援難度の高い医療的ケア児への個別的な相談支援等

（4）コーディネーター等の養成に係る協力　（5）地域における社会資源の開発

（6）周知広報　（7）医療的ケア児の把握　（8）事業効果測定への協力

表 6 － 9　事業実績　（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医ケコ担当ケース（のべ数）		2	3	1	1	2	3	2	2	1	1		18
新規件数　※1			3			2	3	2	6	2			18
継続相談件数（のべ数）	7	6	6	8	7	8	8	7	7	10	8	6	88
短期介入よろず相談内容	4	4	5	4	3	6	7	3	5	8	6	4	59
退院前カンファレンス参加	1		1	2		1	1	1	1	1			9
担当者会議				1	1				1		1	2	6
個別調整	2	4		3	1		2	1			1		14
会議・啓蒙活動等	7	5	4	13	11	7	12	11	7	4	7	5	93

表 6 － 10　※1　新規件数　対象児の年齢　（単位：件）

年齢	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	小学生	中学生	16 歳以上	不特定相談	計
件	9	3	0	0	1	0	0	3	0	2	0	18

表６－11　周知広報　（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医療機関・医療的ケア児支援センター				4	2	5	1				3		15
保育園・学校				2	1						2		5
訪問看護･リハビリ･看護協会等	1		1	6	3	5		1	3	3	5	2	30
療育センター等						2		1					3
行政関係	2					1							3
障害福祉サービス事業所		4		5	10	6	1			2	6	2	36
相談支援事業所（基幹含）	6		1	1		4	2		2	2	2		20
保健センター				2		1		2	1				6
その他関係機関※２	1			2	13	4	1	18					39
合計	10	4	2	22	29	28	5	22	6	7	18	4	157

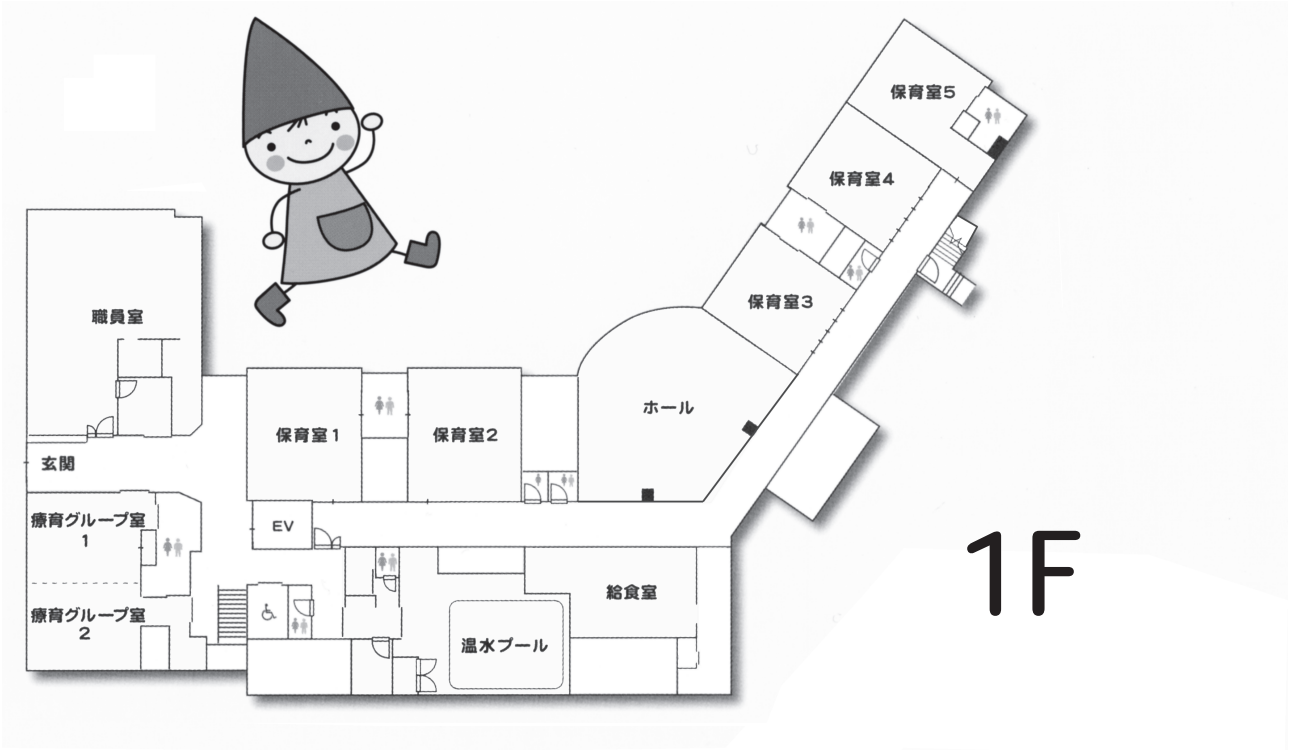
※２　看護学部教員等、社会福祉協議会、教育委員会、患者会、地域･町内会、防災関係者、医療･福祉機器関係者、福祉車両など

表６－12　東ブロックにおける登録フォームへの登録状況と SV 把握児数と把握割合

（2026 年 3 月現在　単位：件）

	千種区	名東区	中区	昭和区	全体
実態調査把握児数	36	46	23	31	136
登録フォーム登録者数	7	10	3	5	25
登録フォームへの登録割合	19.4%	21.7%	13.0%	16.1%	18.4%
SV 把握児数	13	21	11	12	57
把握割合	36.1%	45.7%	47.8%	38.7%	41.9%

平　面　図


保育室5
保育室4
保育室3
職員室
保育室1
保育室2
ホール
玄関
療育グループ室
1
EV
給食室
療育グループ室
2
温水プール
1F

理学療法室
会議室
作業療法室
ボランティア室
脳波・
聴力検査室
待合室
脳波操作室
レントゲン室
相談室
1
相談室
2
EV
相談室
5
耳鼻科
診察室
言語聴覚
療法室
2
言語聴覚
療法室
1
相談室
4
相談室
3
事務室
診察室
1
処置室
診察室
2
2F

2026年7月発行

〒464-0032　名古屋市千種区猫洞通1-15
TEL 052-782-3388　FAX 052-782-0771
E-mail　pocket@shakaikan.com
初回相談受付：052-784-5300
診療相談受付：052-782-0770

東部地域療育センター
ぽけっと